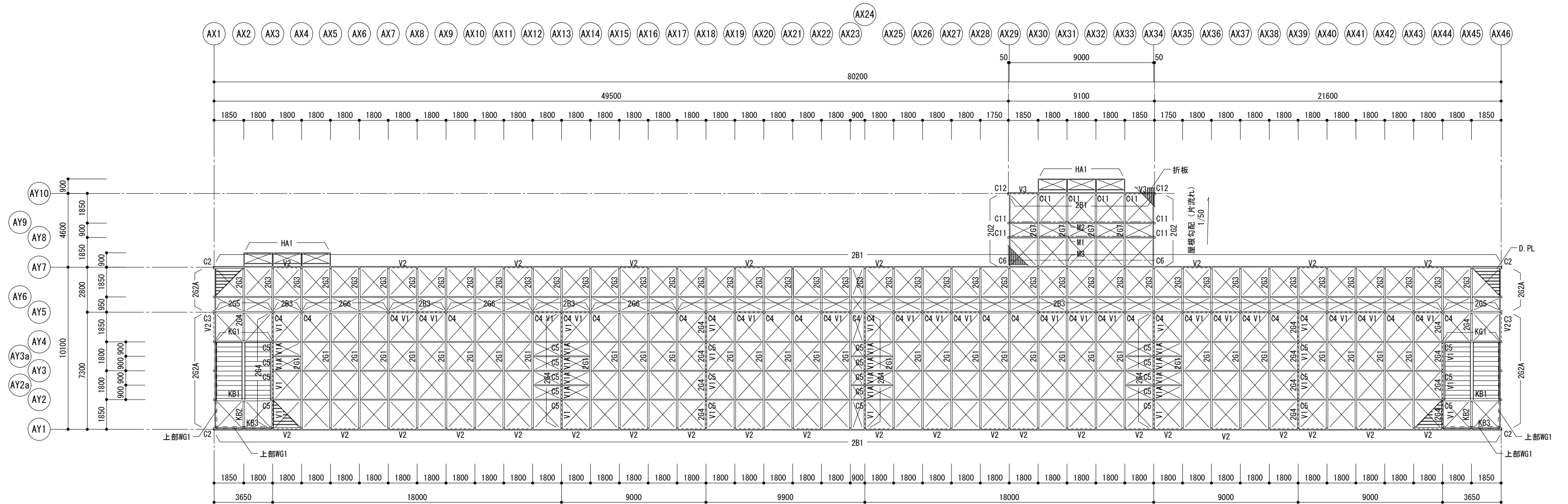


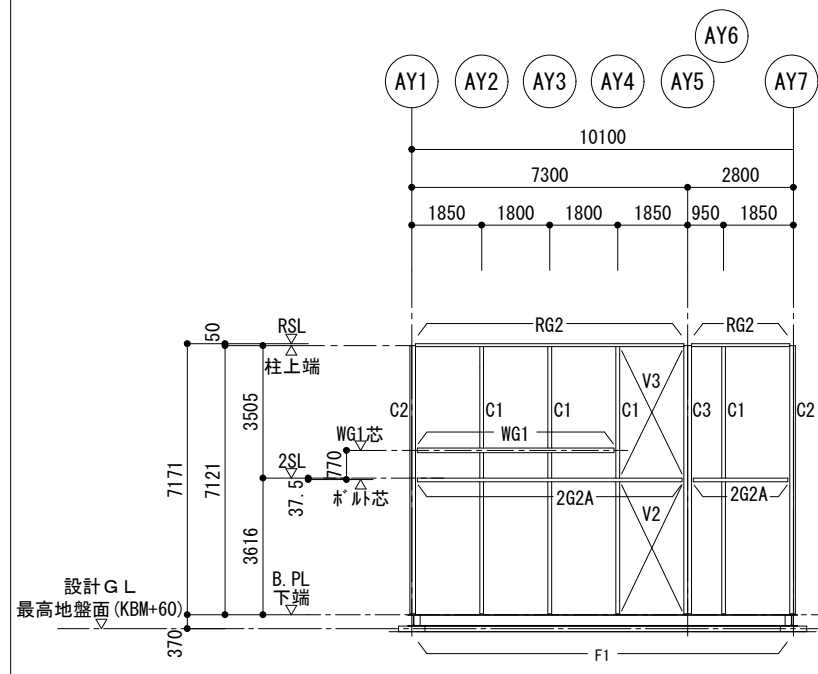
仮設校舎A棟 1階梁伏図 S=1/200

- 特記なき限りは、下記とする。
1. 柱は、C1 とする。
 2. 水平ブレースは、H1 とする。
 3. 梁つなぎは、RB2 とする。
 4. ----- は、モヤ (M) を示す。

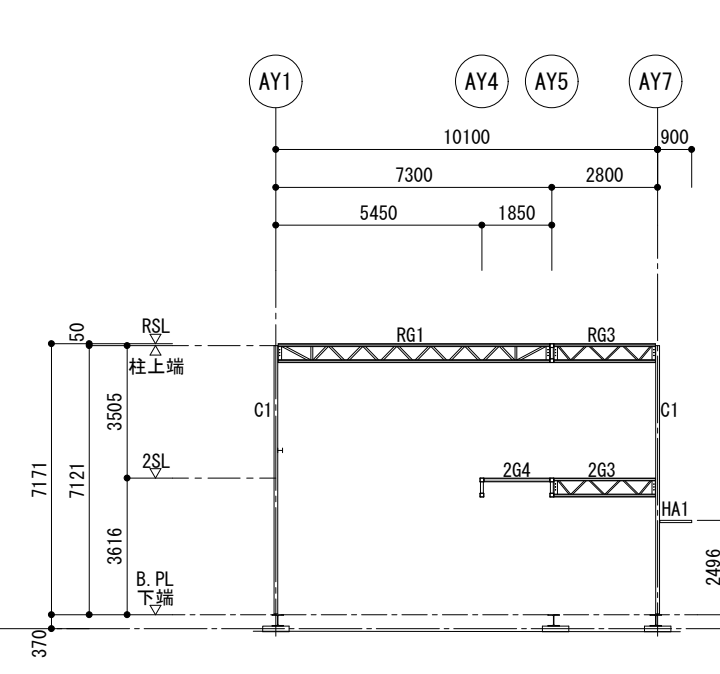


仮設校舎A棟 2階梁伏図 S=1/200

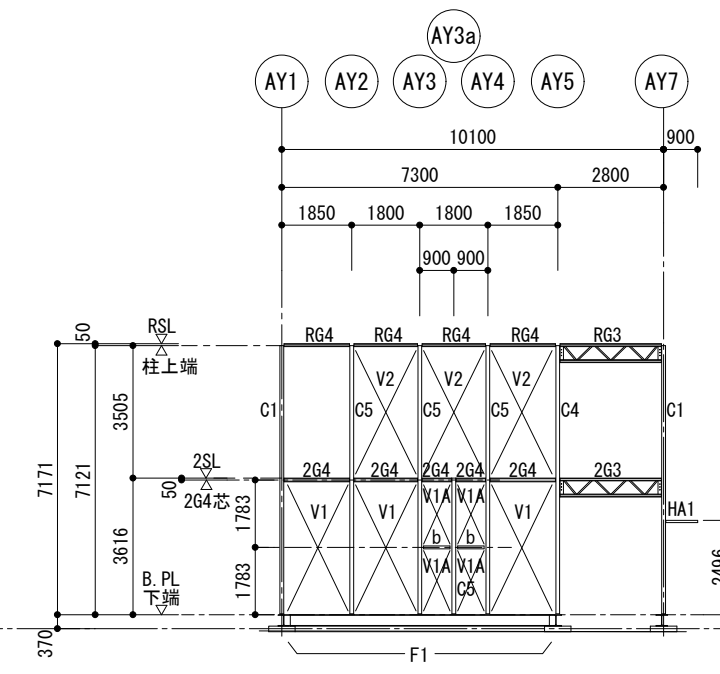
- 特記なき限りは、下記とする。
1. 柱は、C1 とする。
 2. 梁上端は、2FL-96 とする。
 3. 水平ブレースは、H1 とする。
 4. 梁つなぎは、2B2 とする。
 5. ----- は、モヤ (M) を示す。



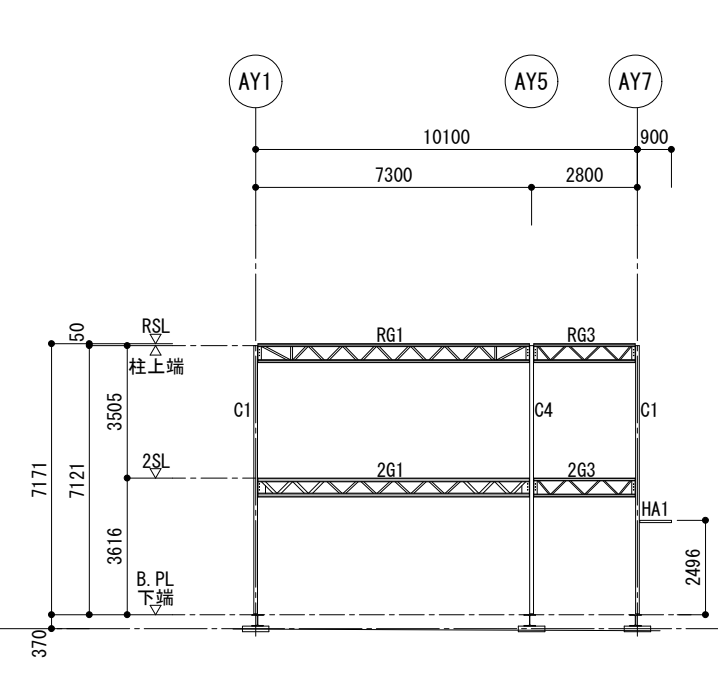
AX1通り軸組図 S=1/200



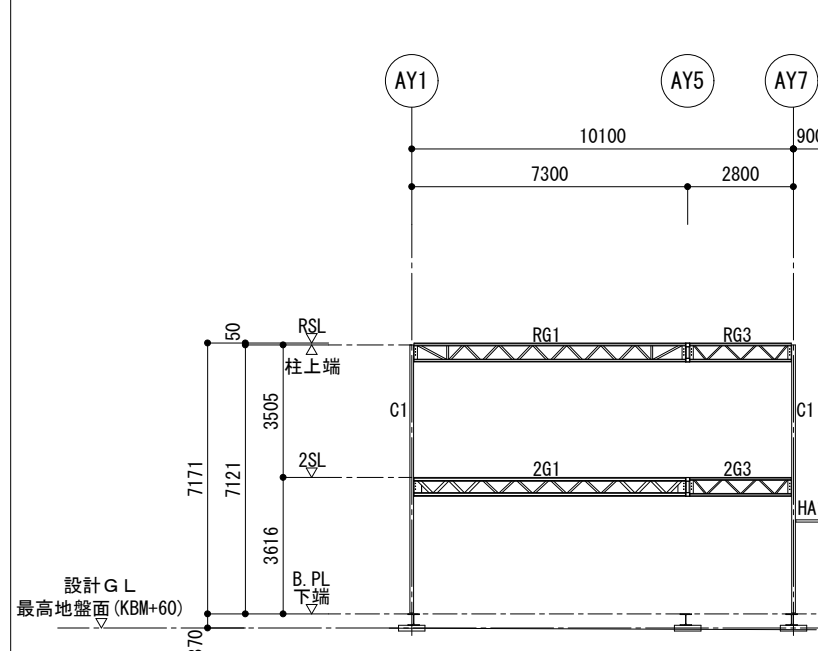
AX2, AX45通り軸組図 S=1/200
※HA1はAX2通りのみ



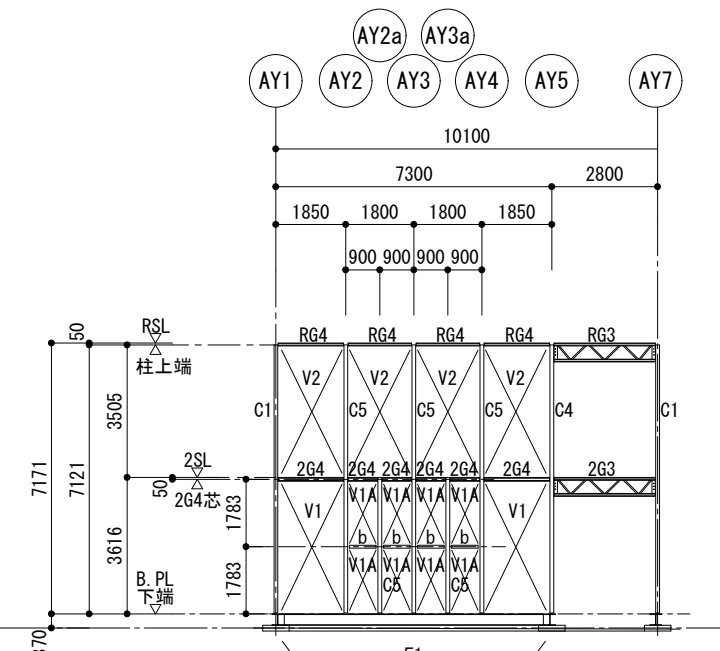
AX3通り軸組図 S=1/200



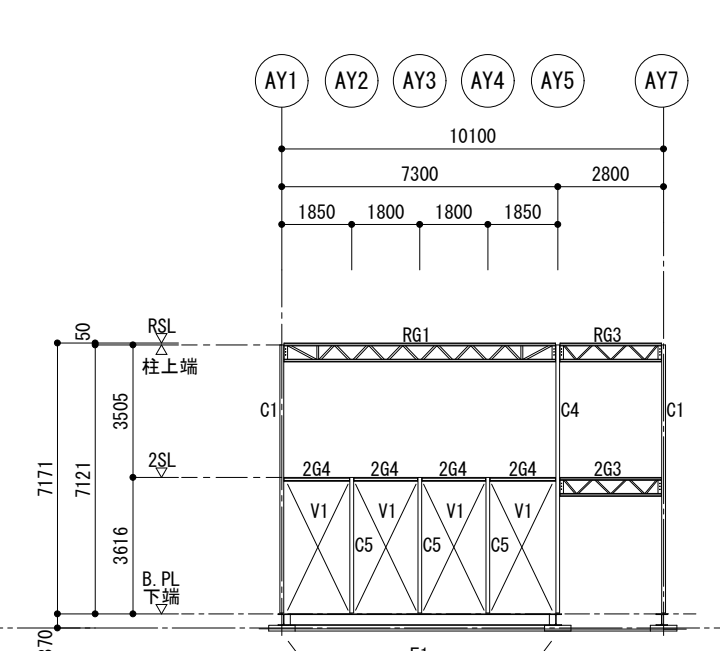
AX4, AX7~AX9, AX12, AX14, AX17, AX19~AX23, AX25~AX28, AX35~AX38, AX40~AX43通り軸組図 S=1/200
※HA1はAX4通りのみ



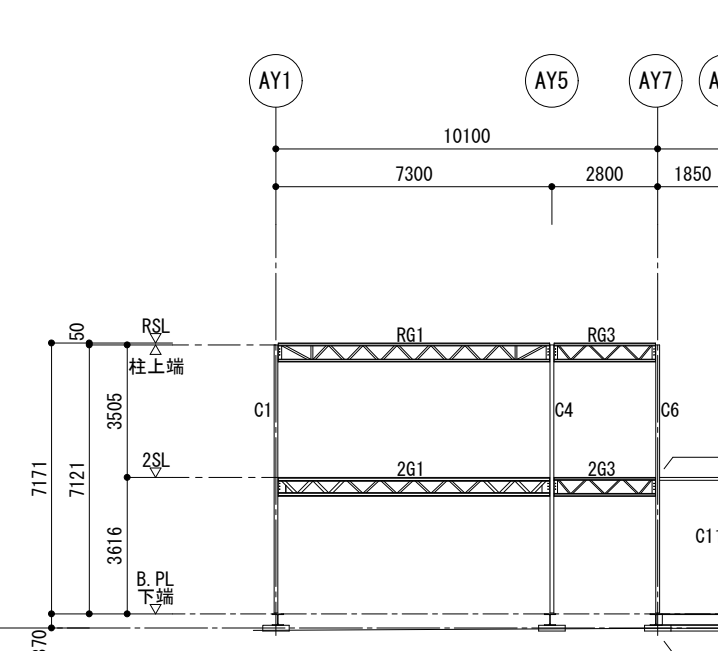
AX5, AX6, AX10, AX11, AX15, AX16通り軸組図 S=1/200
※HA1はAX5通りのみ



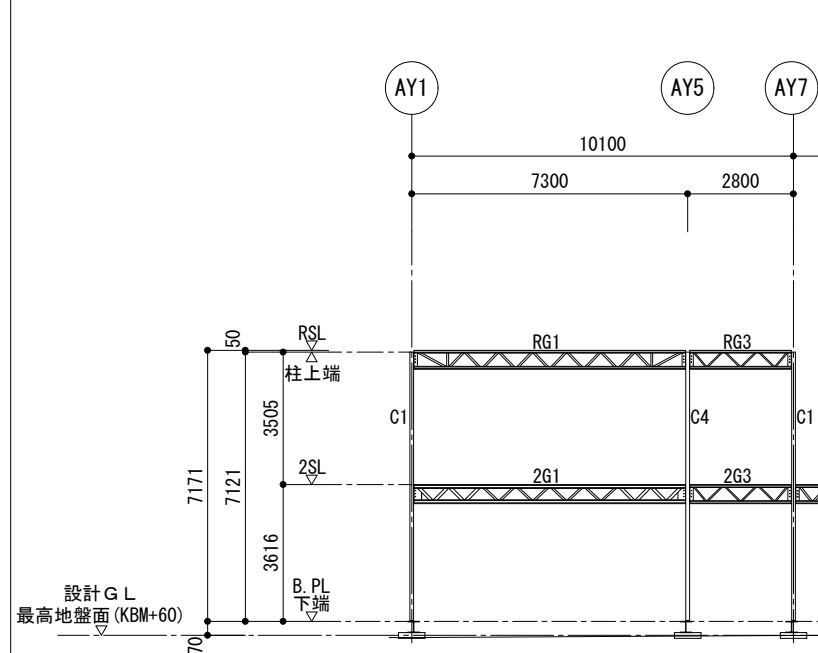
AX13, AX24通り軸組図 S=1/200



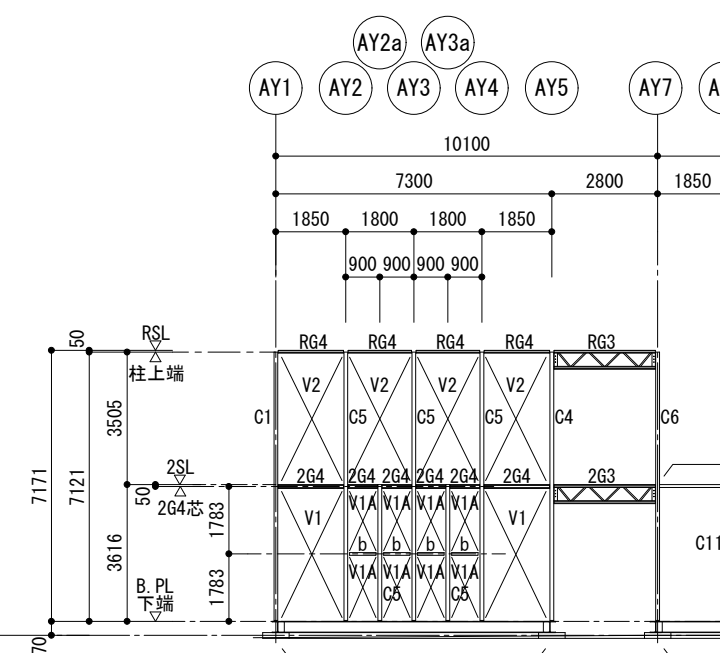
AX18, AX39通り軸組図 S=1/200



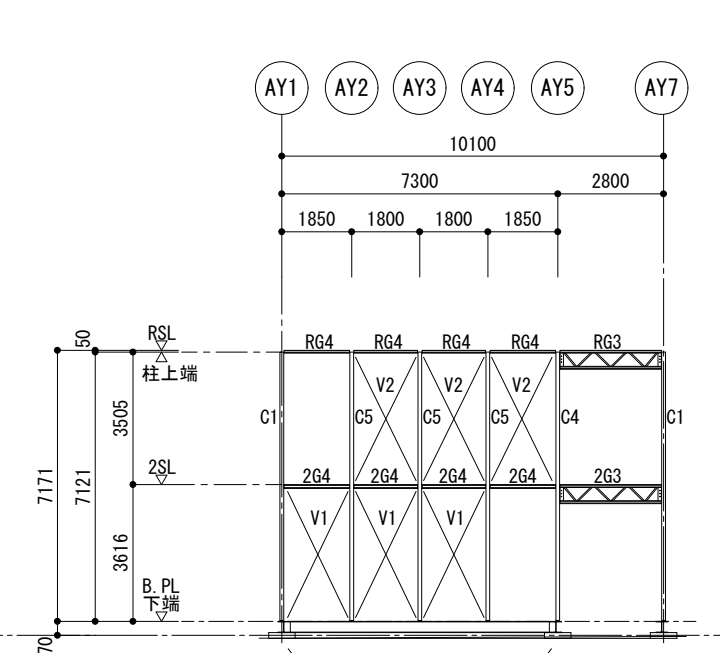
AX29通り軸組図 S=1/200



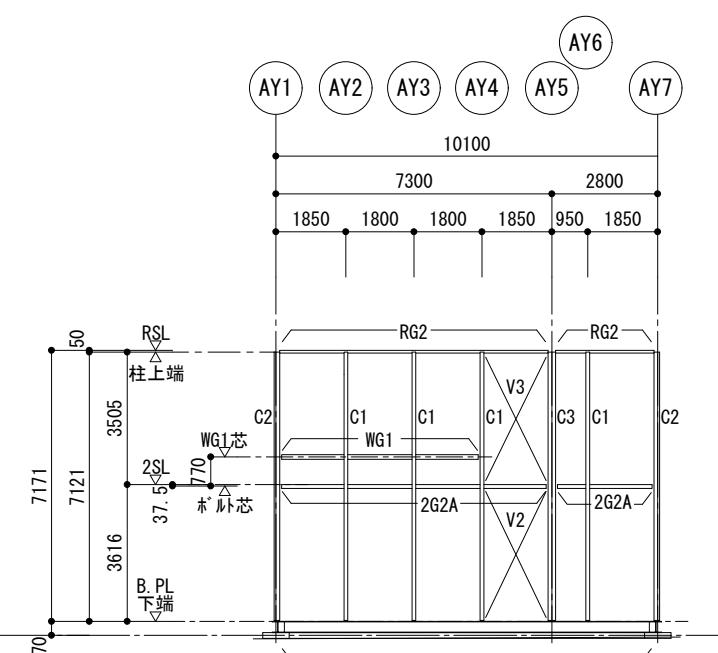
AX30~AX33通り軸組図 S=1/200



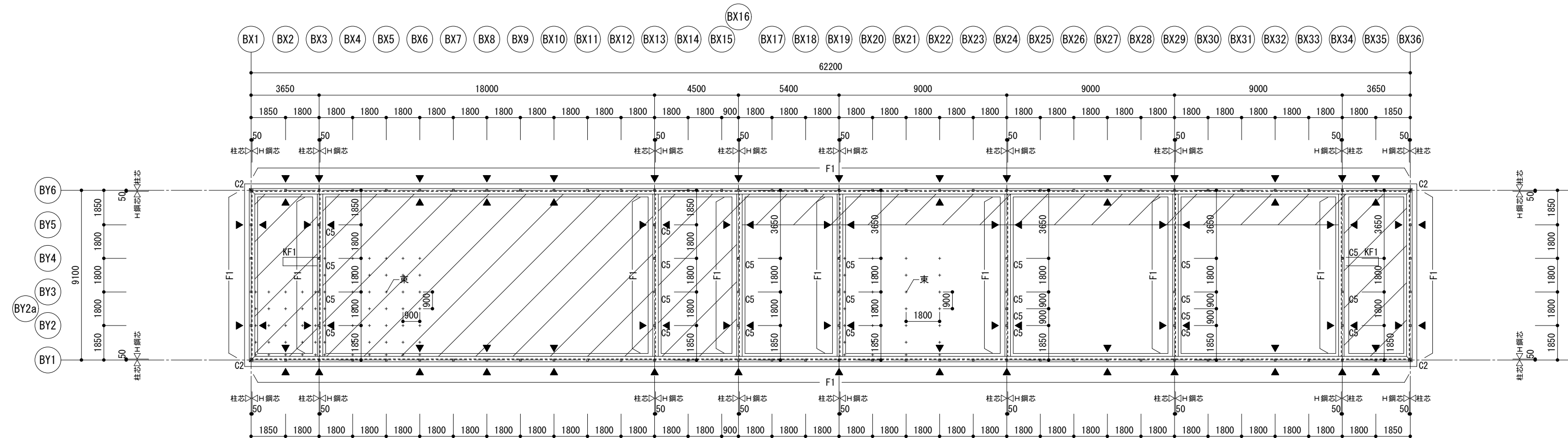
AX34通り軸組図 S=1/200



AX44通り軸組図 S=1/200



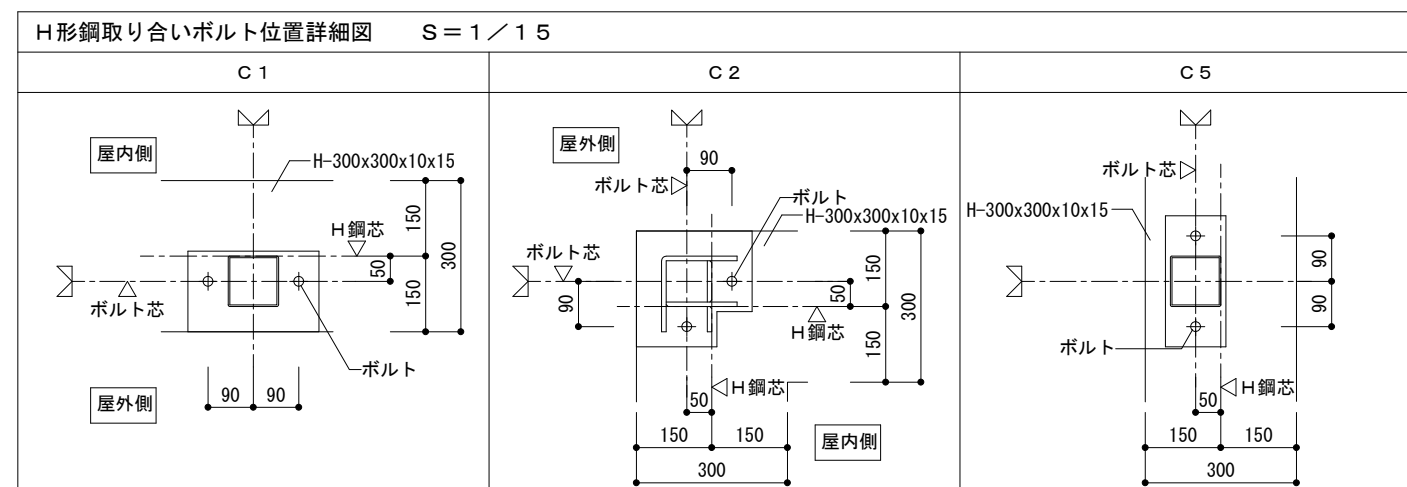
AX46通り軸組図 S=1/200

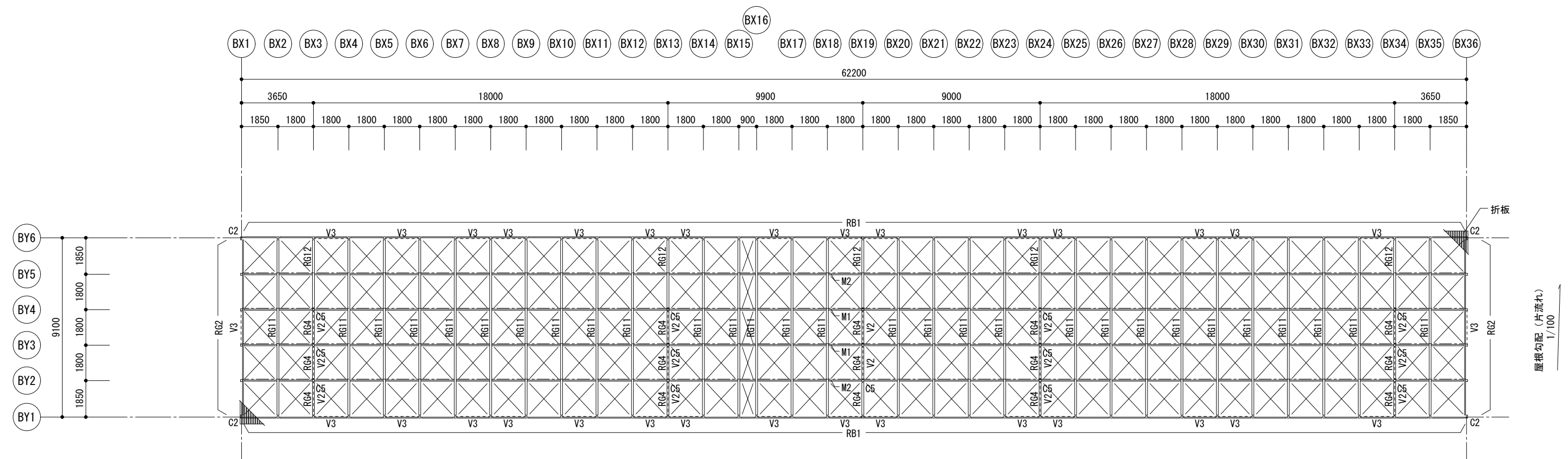


仮設校舎B棟 基礎伏図 S=1/200

- 特記なき限りは、下記とする。
1. 柱は、C1 とする。
 2. ▲ は、H鋼基礎アンカー位置を示す。
 3. 1FL=設計GL+539
 4. // は、床束ピッチを@900×900とする。

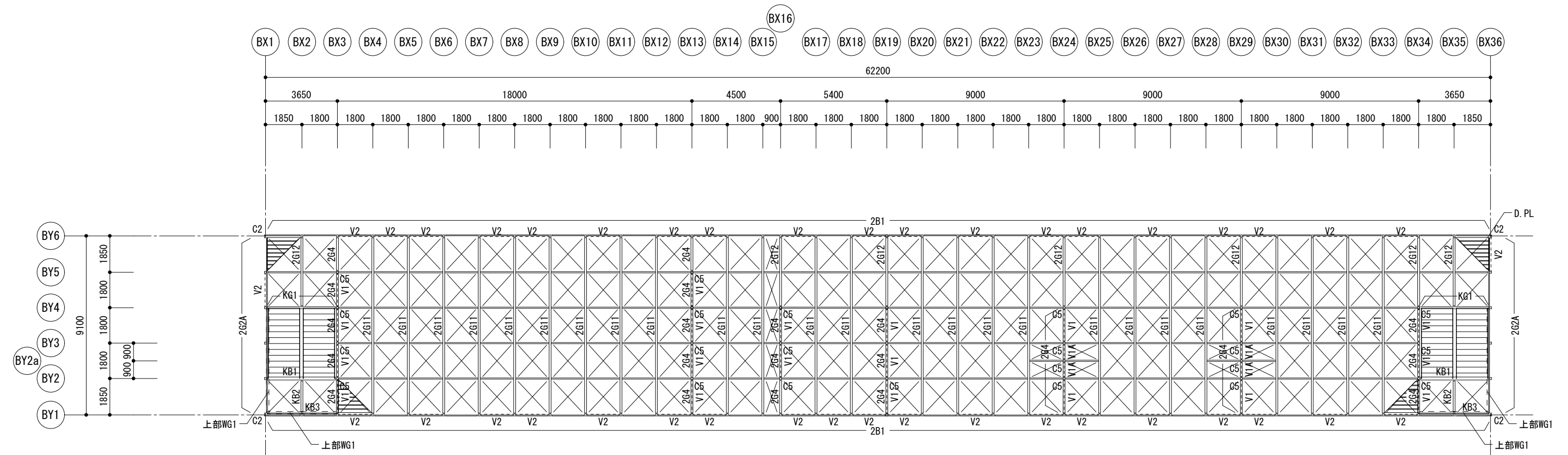
その他は、@1800×900 とする。
 想定床荷重5000N/m² を超える場合は、
 改修時に補強を行う。





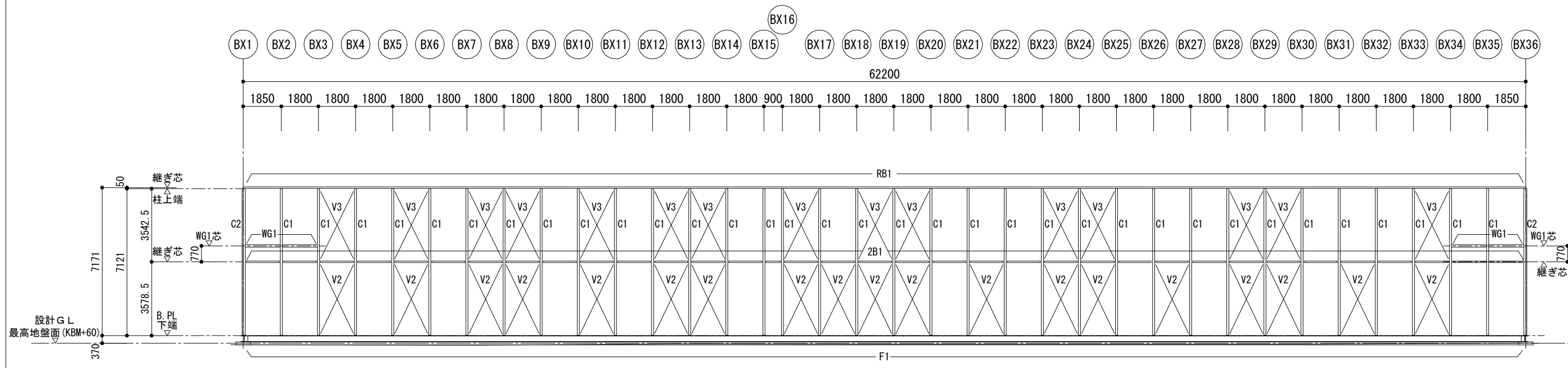
仮設校舎B棟 R階梁伏図 S=1/200

- 特記なき限りは、下記とする。
1. 柱は、C1 とする。
 2. 水平ブレースは、H1 とする。
 3. 梁つなぎは、RB2 とする。
 4. は、モヤ (M) を示す。

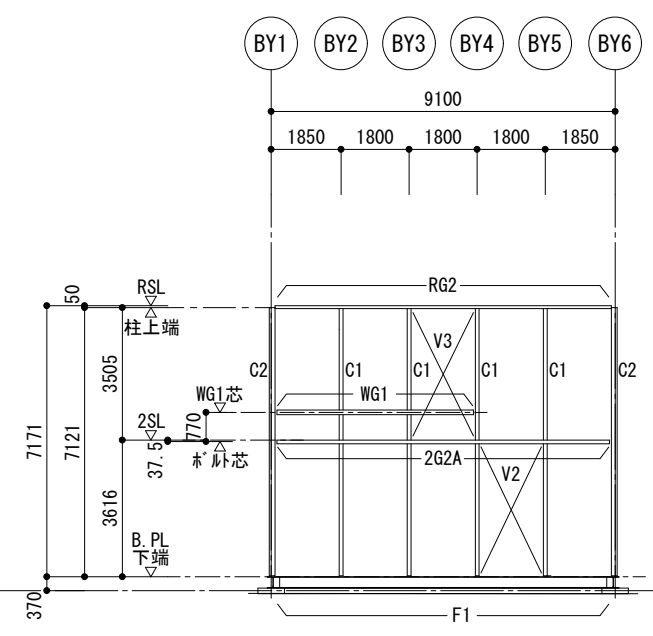


仮設校舎B棟 2階梁伏図 S=1/200

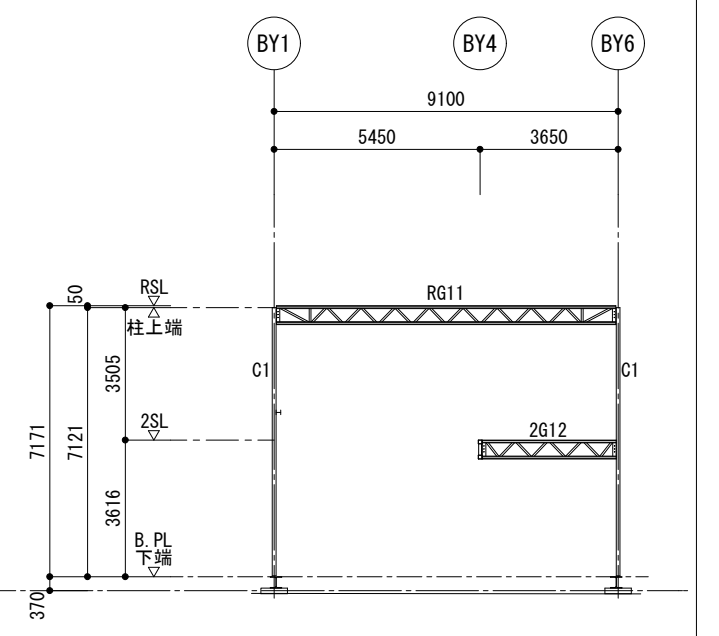
- 特記なき限りは、下記とする。
1. 柱は、C1 とする。
 2. 梁上端は、2FL-91 とする。
 3. 水平ブレースは、H1 とする。
 4. 梁つなぎは、2B2 とする。



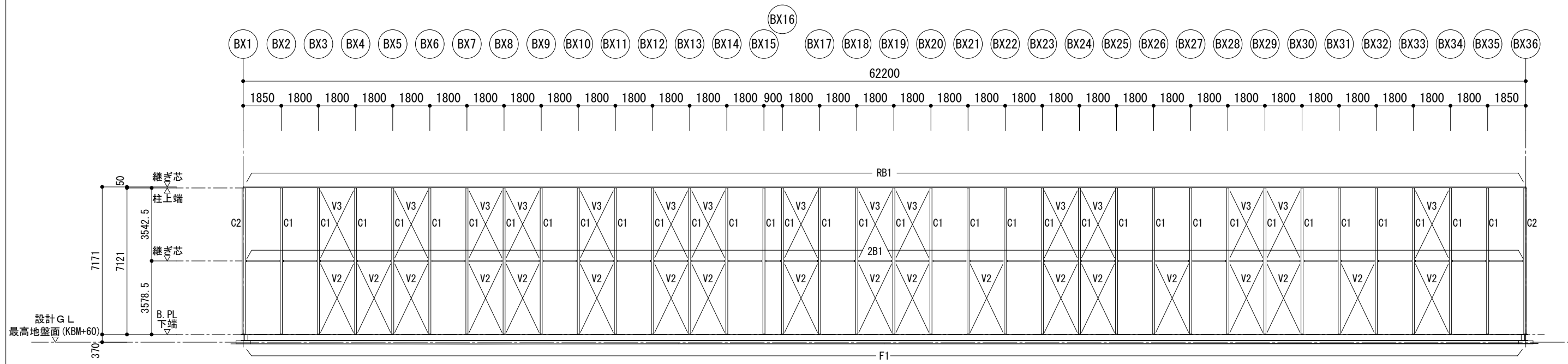
BY 1 通り軸組図 S = 1 / 200



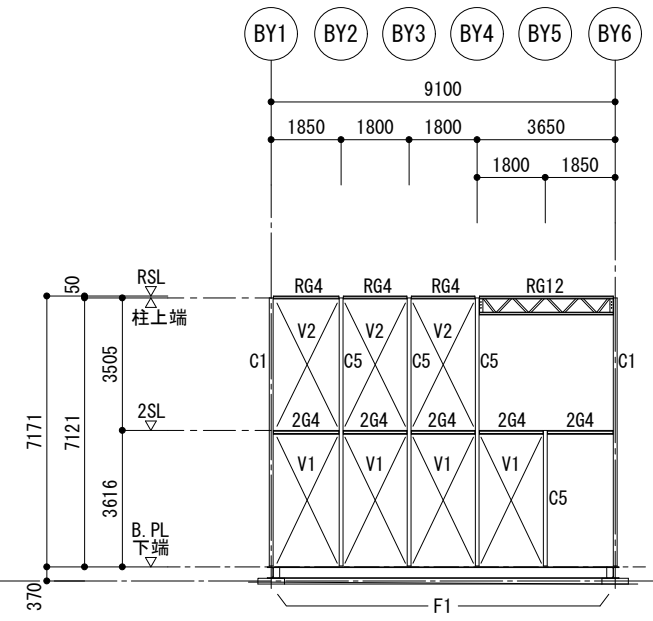
B X 1 通り軸組図 S = 1 / 200



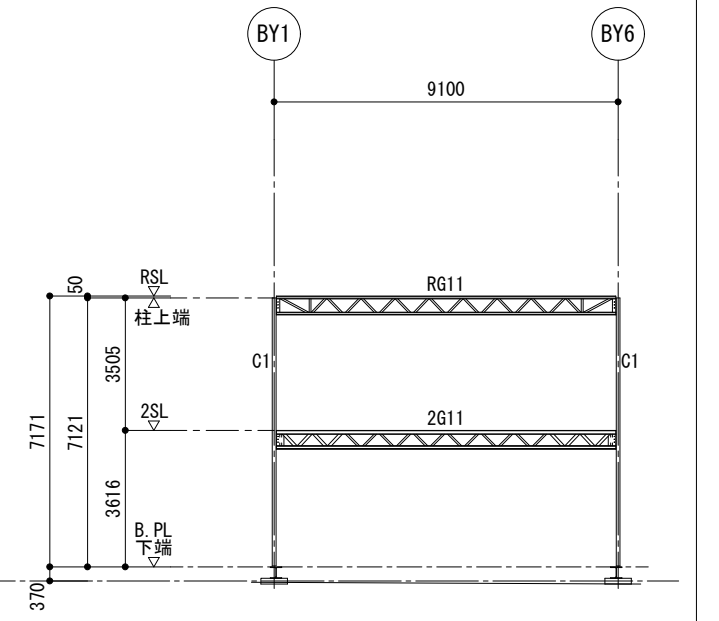
B X 2, B X 35 通り軸組図 S = 1 / 200



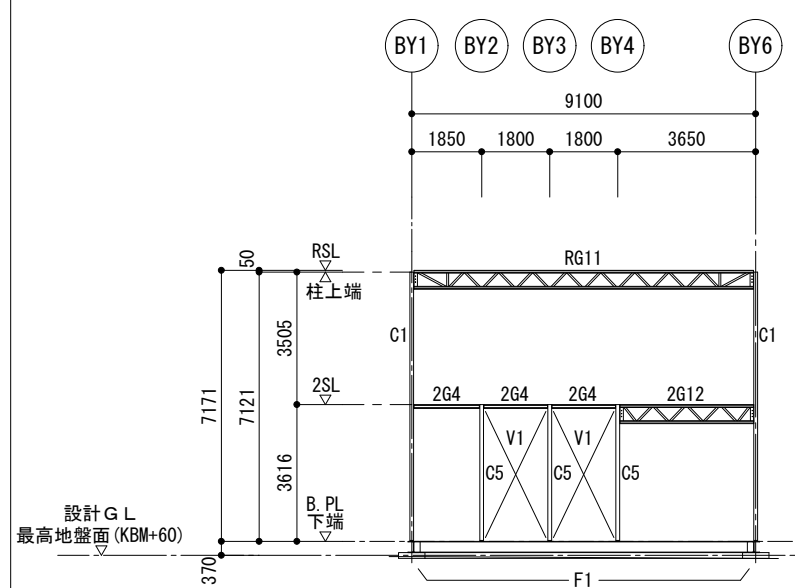
BY 6 通り軸組図 S = 1 / 200



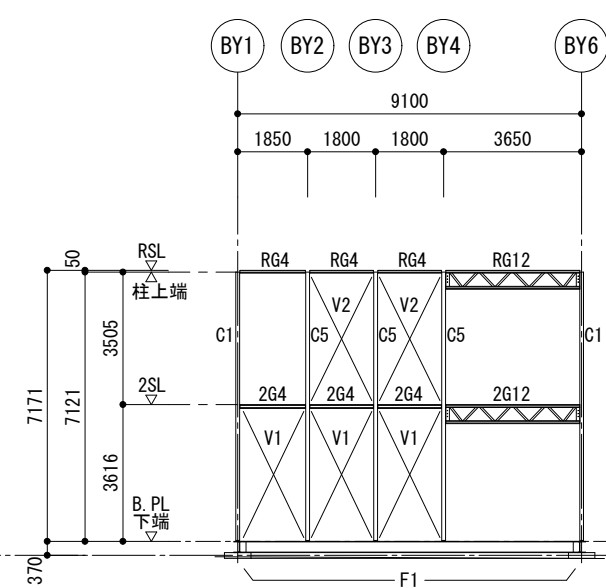
B X 3, B 13 通り軸組図 S = 1 / 200



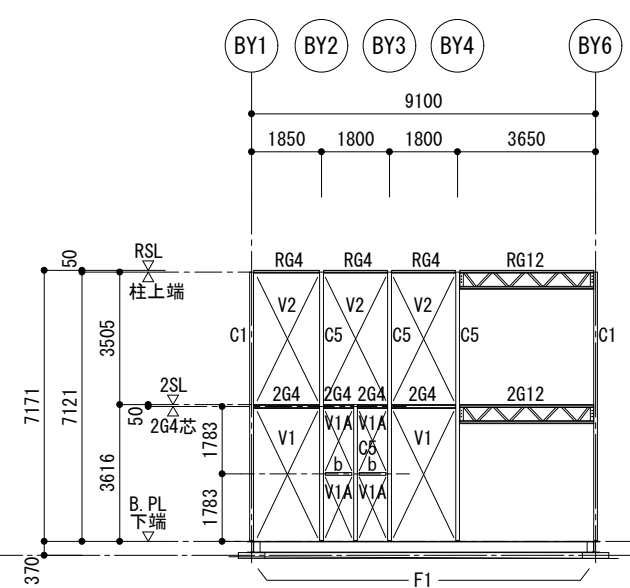
B X 4 ~ B X 12, B X 14, B X 15, B X 17, B X 18, B X 20 ~ B X 23, B X 25 ~ B X 28, B X 30 ~ B X 33 通り軸組図 S = 1 / 200



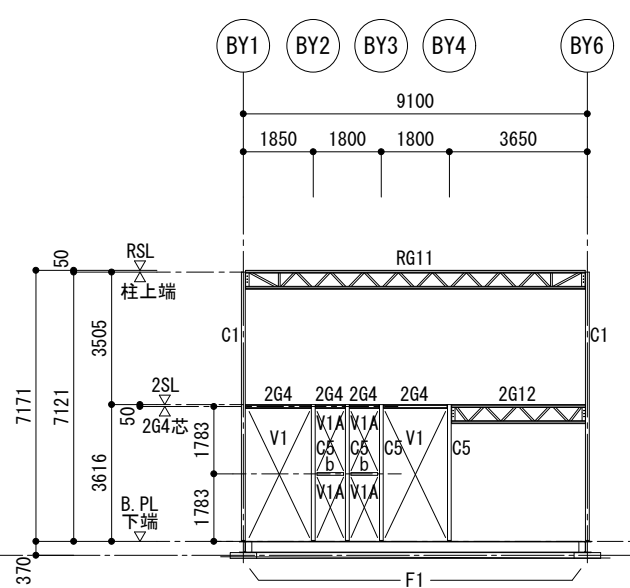
B X 16 通り軸組図 S = 1 / 200



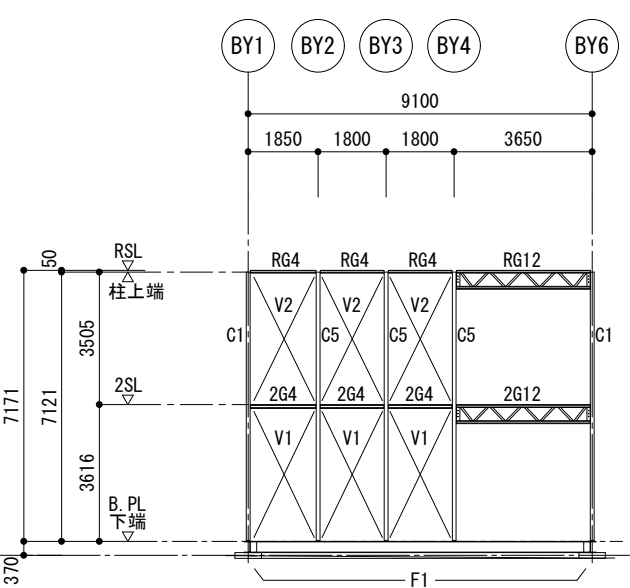
B X 19 通り軸組図 S = 1 / 200



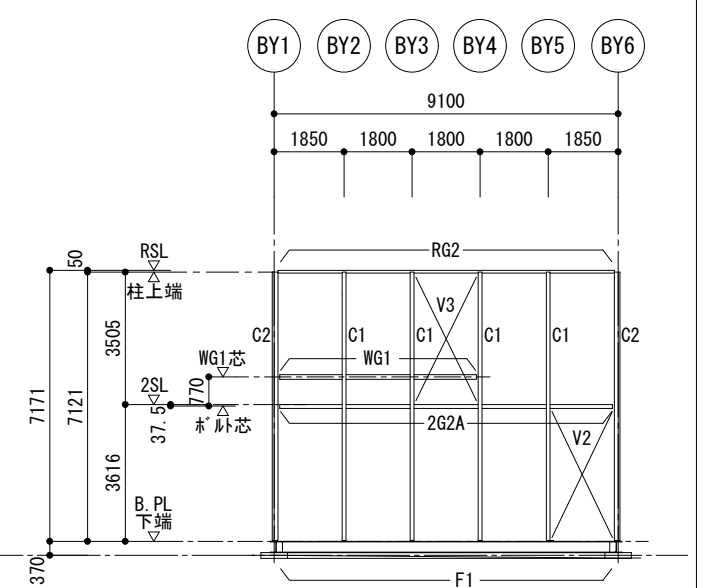
B X 24 通り軸組図 S = 1 / 200



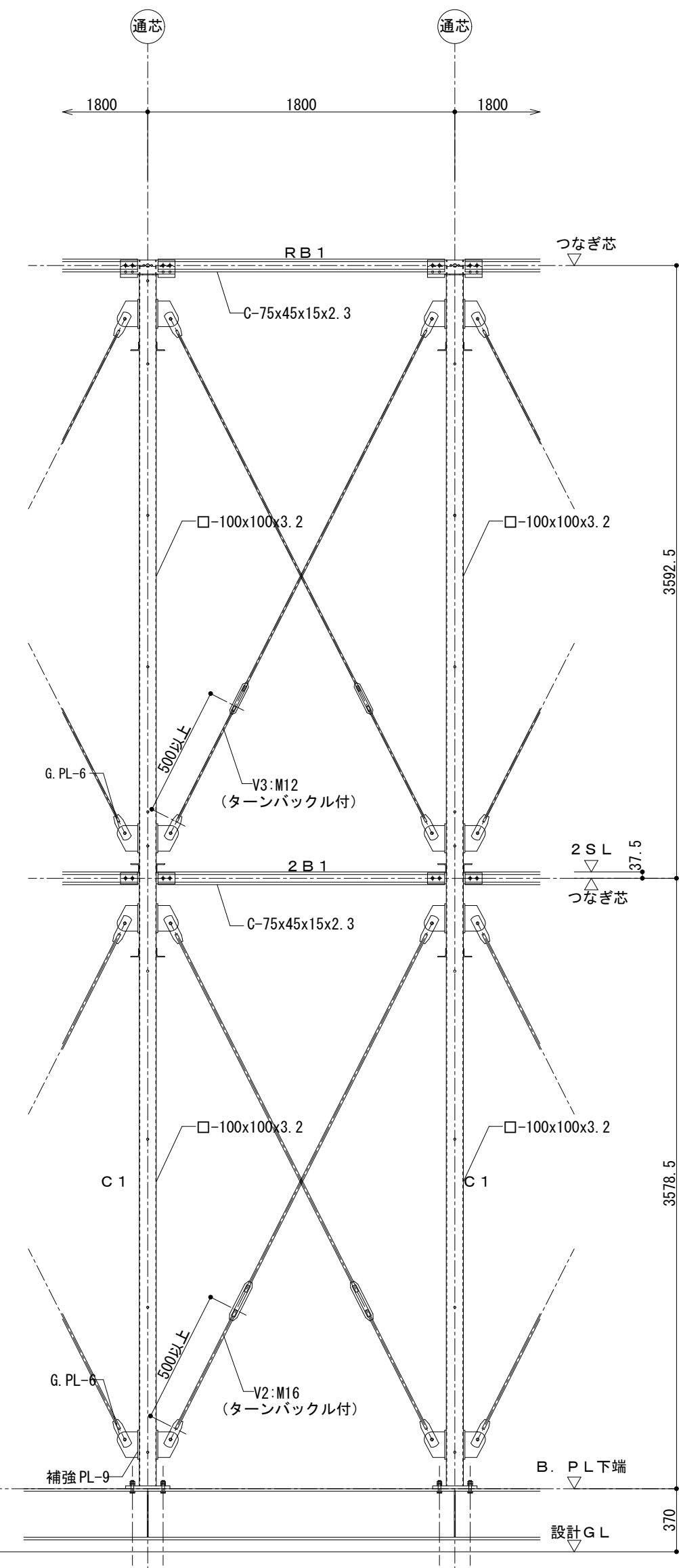
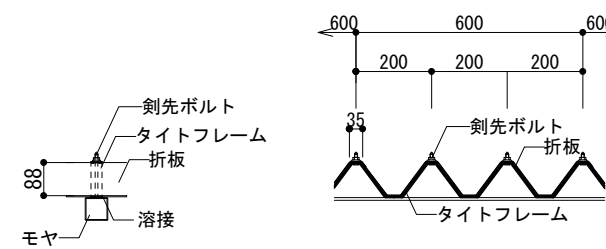
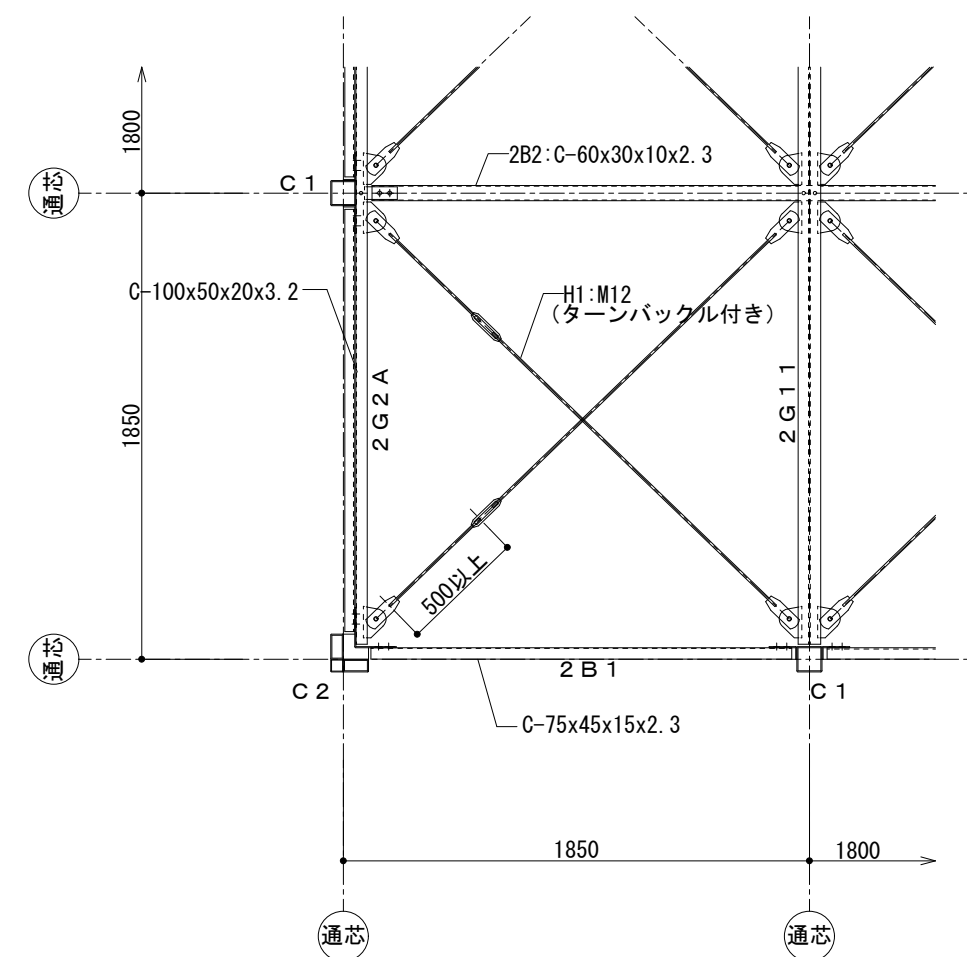
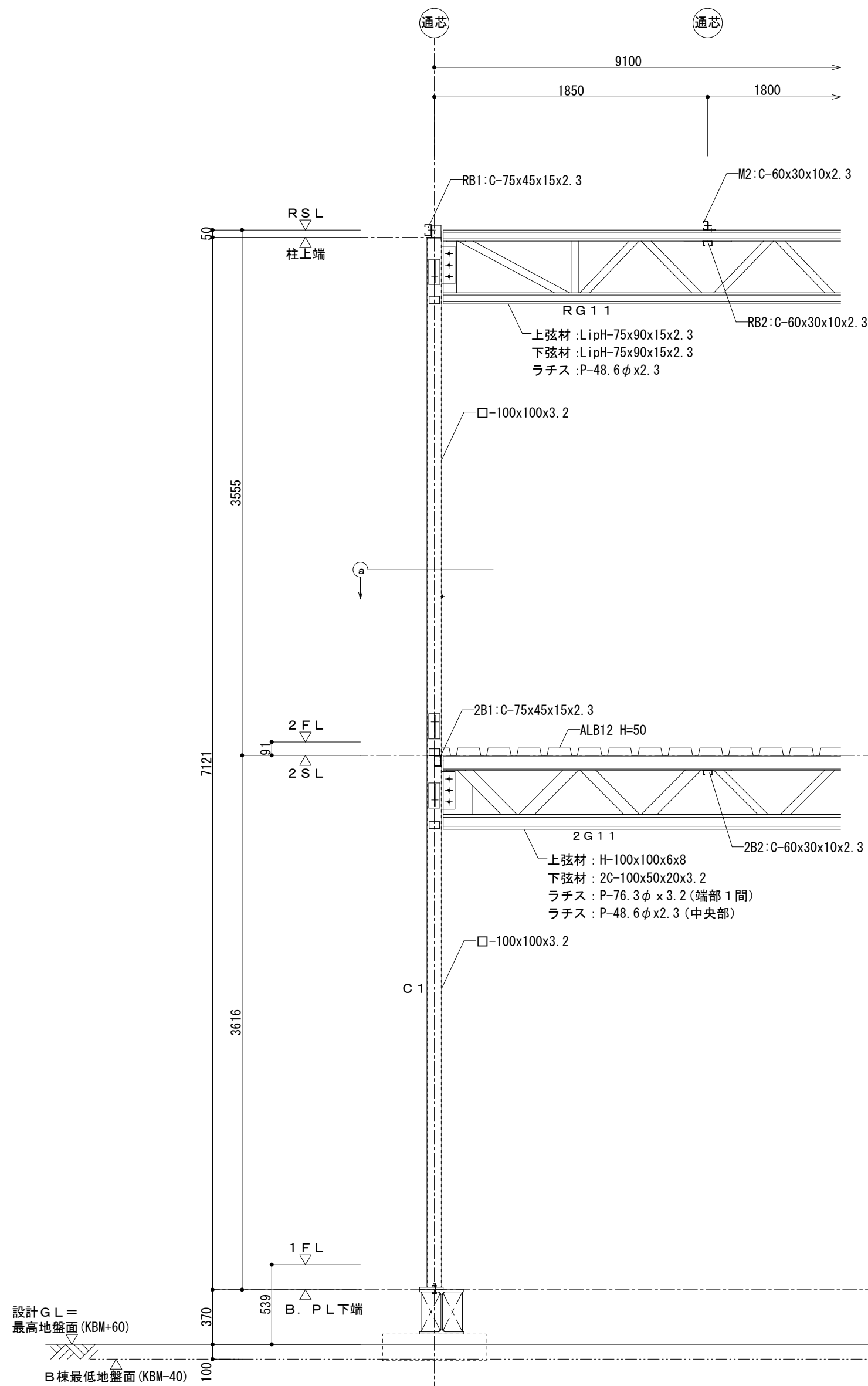
B X 29 通り軸組図 S = 1 / 200

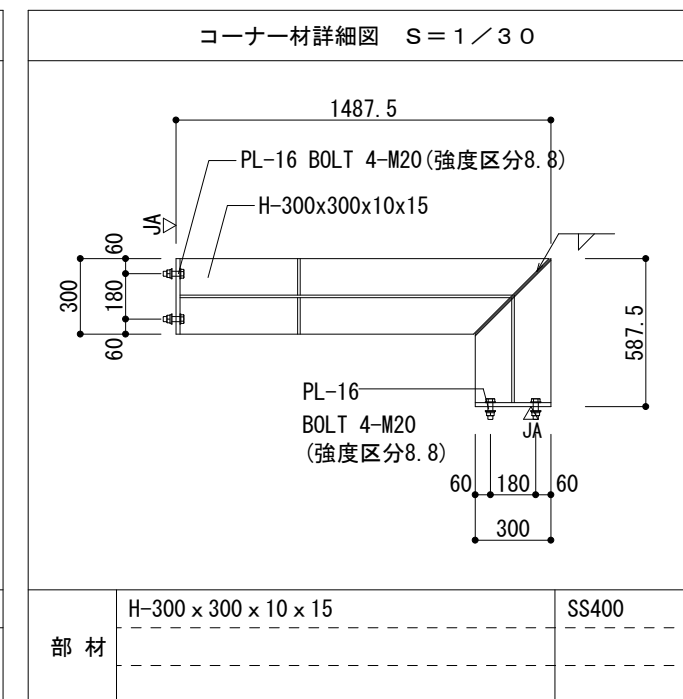
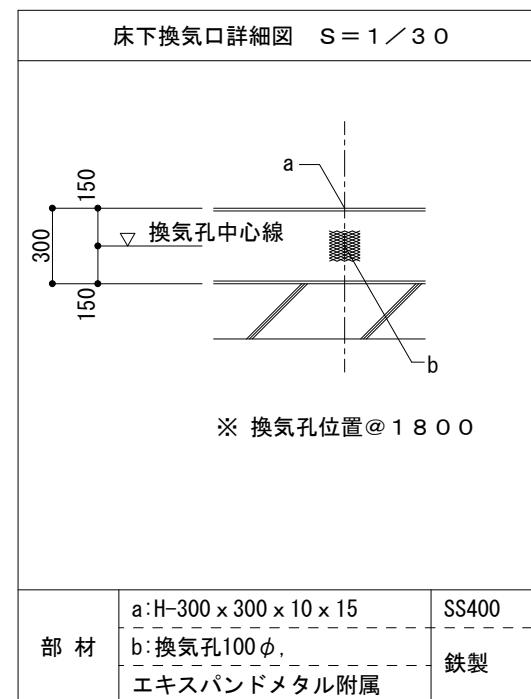
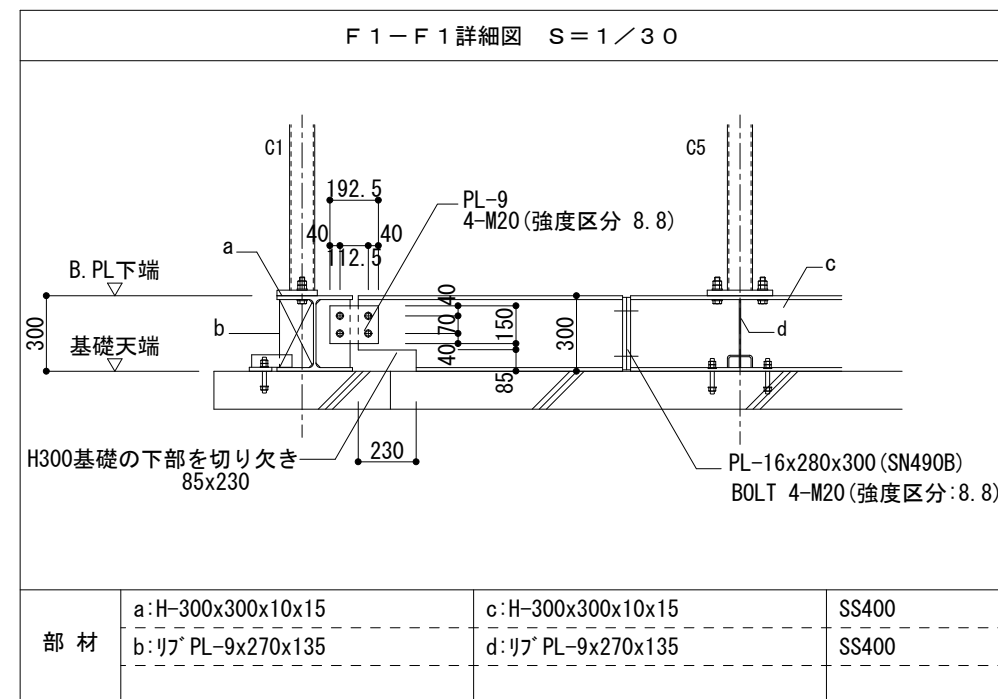
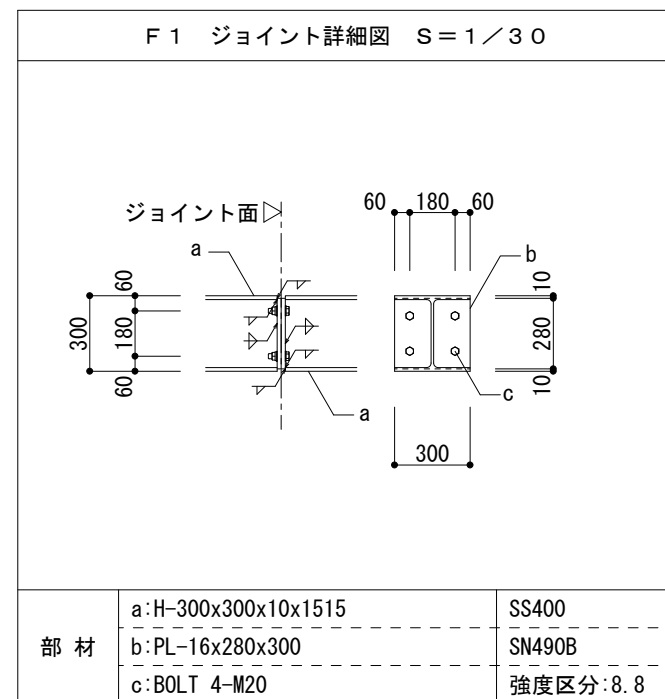
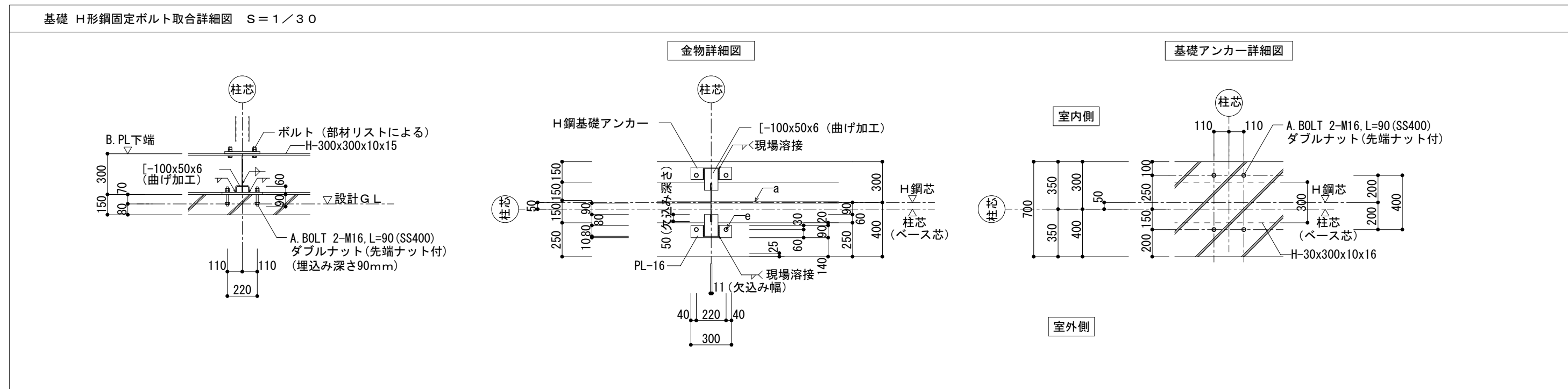
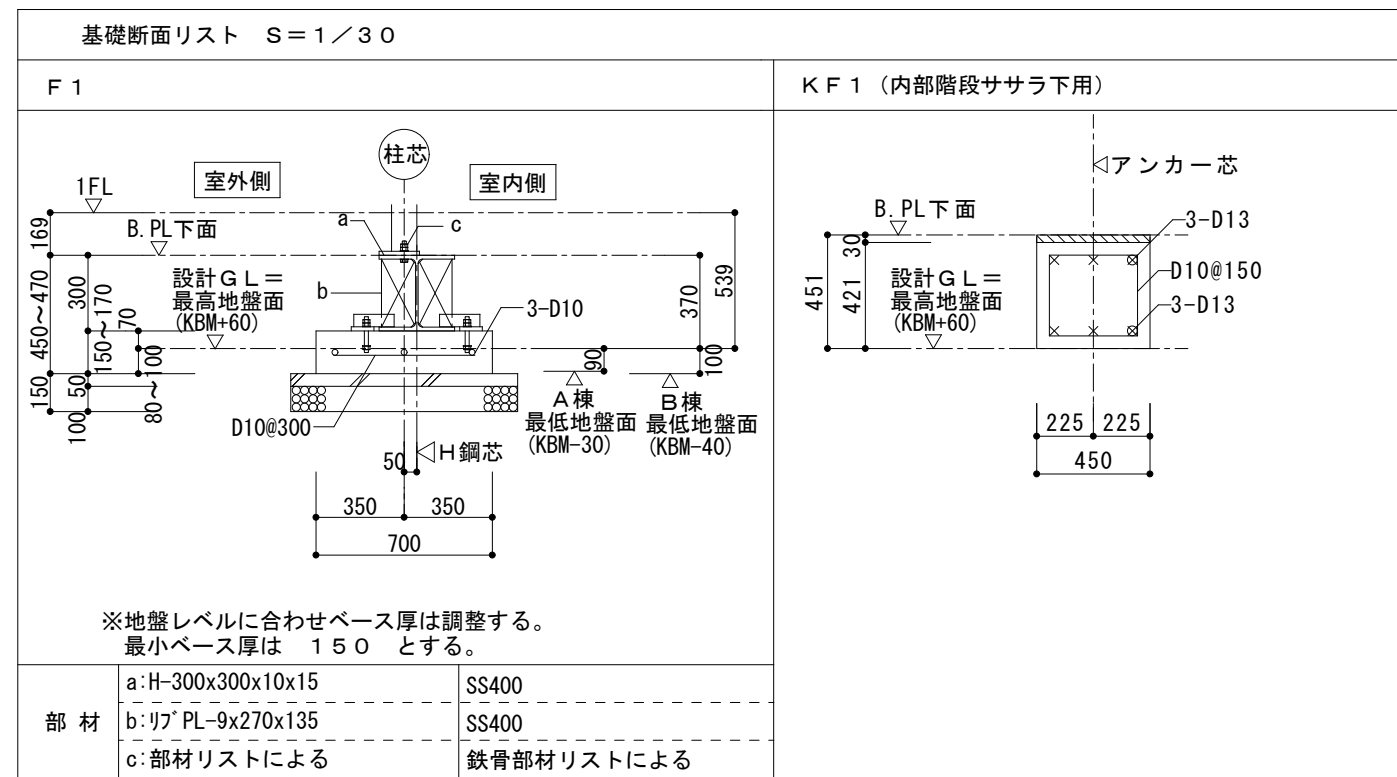


B X 34 通り軸組図 S = 1 / 200



B X 36 通り軸組図 S = 1 / 200





名称	C 1		C 2		C 3		C 4		C 5		C 6		C 11	
断面														
細長比	2F:λ=90, 1F:λ=92		2F:λ=75, 1F:λ=76		2F:λ=90, 1F:λ=92		2F:λ=92, 1F:λ=93		2F:λ=92, 1F:λ=93		2F:λ=89, 1F:λ=90		1F:λ=92	
部材	□-100×100×3.2	STKR400	□-50×50×3.2	STKR400	2□-100×100×3.2	STKR400	□-100×100×4.5	STKR400	□-100×100×4.5	STKR400	□-150×100×6.0	STKR400	□-100×100×3.2	STKR400
柱脚	B. PL-16	SN490B	B. PL-16	SN490B	B. PL-16	SN490B	B. PL-16	SN490B	B. PL-16	SN490B	B. PL-16	SN490B	B. PL-16	SN490B
	BOLT 2-M16	強度区分: 10.9	BOLT 2-M16	強度区分: 10.9	BOLT 2-M16	強度区分: 10.9	BOLT 2-M16	強度区分: 10.9	BOLT 2-M16	強度区分: 10.9	BOLT 2-M16	強度区分: 10.9	BOLT 2-M16	強度区分: 10.9
名称	C 12													
断面														
細長比	1F:λ=76													
部材	□-50×50×3.2	STKR400	+2□-100×50×3.2											
柱脚	B. PL-16	SN490B	BOLT 2-M16											
		強度区分: 10.9												
名称	RG 1	2G 1		RG 2・2G 2		2G 2A		RG 3・2G 3		RG 4		2G 4		
断面														
部材	a: LIPH-75×90×15×2.3 b: LIPH-75×90×15×2.3 c: P-48. 6φ×2.3	SWH400L	a: 2C-100×50×20×3.2 b: 2C-100×50×20×2.3 c: P-76. 3φ×3.2 (端部1間) d: P-48. 6φ×2.3 (中間部)	SSC400	C-75×45×15×2.3	SSC400	C-100×50×20×3.2	SSC400	a: 2C-75×45×15×2.3 b: 2C-75×45×15×2.3 c: P-34. 0φ×2.3	SSC400	2C-75×45×15×2.3	SSC400	2C-100×50×20×2.3	SSC400
仕口	G. PL-4. 5以上	SS400	G. PL-4. 5以上	SS400	G. PL-4. 5	SS400	G. PL-4. 5	SS400	G. PL-4. 5以上	SS400	G. PL-4. 5以上	SS400	G. PL-4. 5以上	SS400
	BOLT 3-M12	強度区分: 4. 8	BOLT 3-M12	強度区分: 8. 8	BOLT 2-M12	強度区分: 4. 8	BOLT 2-M12	強度区分: 4. 8	BOLT 3-M12	強度区分: 4. 8	BOLT 2-M12以上	強度区分: 4. 8	BOLT 2-M12以上	強度区分: 4. 8
名称	RG 5・2G 5		RG 6・2G 6		2G 7		RG 11		2G 11		RG 12・2G 12			
断面														
部材	a: □-100×100×3.2 b: □-100×100×3.2 c: □-75×75×3.2 束: □-100×50×4.5	STKR400	a: □-100×100×3.2 b: □-100×100×3.2 c: □-75×75×3.2 束: □-100×50×4.5	STKR400	a: 2C-75×45×15×2.3 b: 2C-75×45×15×2.3 c: P-48. 6φ×2.3	SSC400	a: LIPH-75×90×15×2.3 b: LIPH-75×90×15×2.3 c: P-48. 6φ×2.3	SWH400L	a: H-100×100×6×8 b: 2C-100×50×20×3.2 c: P-76. 3φ×3.2 (端部1間) d: P-48. 6φ×2.3 (中間部)	SS400	a: 2C-75×45×15×2.3 b: 2C-75×45×15×2.3 c: P-48. 6φ×2.3	SSC400		
仕口	G. PL-6	SS400	G. PL-6	SS400	G. PL-4. 5以上	SS400	G. PL-4. 5以上	SS400	G. PL-4. 5以上	SS400	G. PL-4. 5以上	SS400	G. PL-4. 5以上	SS400
	BOLT 3-M16	強度区分: 10.9	BOLT 3-M16	強度区分: 10.9	BOLT 3-M12	強度区分: 4. 8	BOLT 3-M12	強度区分: 4. 8	BOLT 3-M12	強度区分: 8. 8	BOLT 3-M12	強度区分: 4. 8以上		

・本仕様の中で選択式の項目は、■を採用して □は採用しない。
 ・■であっても上位の項目が□の場合は採用しない。

1. 構造概要

・建設場所 京都府京都市伏見区桃山毛利長門東町
 ・工事種別 ■新築 □増築 □改築
 ・建物用途 学校
 ・階数規模 鉄骨造（ブレース構造） 地上階建
 ・屋上荷重 □空調屋外機 □ソーラーシステム □屋上緑化設備 □
 ・特殊荷重 □エレベーター（乗用13人乗り） □小荷物昇降機
 ・増築計画 なし
 ・外的条件 風速（V0） 32m/s
 地表面粗度区分 □Ⅰ □Ⅱ ■Ⅲ □Ⅳ
 積雪 積雪量：30cm 単位重量：20N/m²・cm
 凍結深度 0.00m
 構造体（用途係数） □Ⅰ類（1.5） □Ⅱ類（1.25） ■Ⅲ類（1.0）
 非構造部材 □A類 ■B類
 ・部材の種類 □新品 ■再利用部材
 ・令第129条の2の3の事項 給湯設備については風圧、土圧及び水圧並びに地震その他の震動及び衝撃に対して安全上支障のない構造とすること。

2. 地盤・地業

・地盤調査資料 事前資料：■有り □無し 調査予定：□有り ■無し
 調査場所：■敷地内 □近隣
 調査方式：■スウェーデン式静貫入試験 □標準貫入試験 □平板載荷試験
 資料確認：■添付の調査報告書参照
 ・地盤許容支持力 50 kN/m²（長期）
 ・支持層位置 □土層 ■GL-0.45m □その他
 ・調査水位 GL- m
 ・基礎支持形式 ■直接基礎 ■布基礎 □バタ基礎 □独立基礎
 □地盤改良 □表層改良 □粉体セメント系固化工材原位置混合処理工法（□免塵抑制型 □六価クロム低排型）
 □柱状改良 □スラリー状セメント系固化工材原位置混合処理工法（ソイルセメントコラム）
 □杭基礎 □摩擦杭 □一般支持杭 □認定協底根固め支持杭
 ■砕石（再生クラッシュランRC-40） □切込砕石 □川砂利
 □場内敷き均し ■場内指定場所堆積 □場外処分

・地業材料
 ・残土処分
 ・柱状図

標高m	層厚m	深度m	土質	N値
0	1.25	1.25	磯混じり砂	4
1	2.75	4.00	砂礫混じり粘性土	4
2	0.50	4.50	粘性土	8
3	2.00	6.50	砂混じり粘性土	10
4			粘土混じり砂壤土	30

3. 鉄筋コンクリート基礎工事

(1) コンクリート

・使用材料

■コンクリートはJIS A5308によるレディーミクストコンクリートとする。
 ■使用するセメントはJIS R5210によるボルトランドセメントとする。
 ■普通ボルトランドセメント □早強ボルトランドセメント

項目	基礎（構造体）	土間	捨てコン
種類	普通	普通	普通
設計基準強度（N/mm ² ）	21	21	15
スランプ	18	18	15

・強度補正

■構造体強度補正值は以下による。（JASS5-2015）

気温θ（℃）	打込み日から28日までの予想平均気温	暑中期間
早強ボルトランドセメント	0 ≤ θ < 5	5 ≤ θ
普通ボルトランドセメント	0 ≤ θ < 8	8 ≤ θ

補正值（N/mm²） +6 +3 +6

・型枠

型枠の材質：■合板 □金属パネル
 ■型枠の存置期間を定めるためのコンクリートの材齢は以下による。

平均気温（℃）	10℃以上20℃未満	20℃以上
早強ボルトランドセメント	3日	2日
普通ボルトランドセメント	6日	4日

■上記以前に脱枠する場合は、圧縮強度試験を行ない、強度が5N/mm²以上に達している事を確認すること。

・品質管理

■コンクリートはJIS 認証工場の製品とし、施工は公共建築工事標準仕様書による。
 ■AE剤、AE減水剤を用いるコンクリートの空気量は4.5%とする。
 ■水セメント比は65%以下とする。（土間コンクリートは60%以下とする）
 ■単位水量は185kg/m³以下とする。
 ■単位セメント量は270kg/m³以上とする。
 ■塩化物含有量試験により、塩化物イオン量が0.30kg/m³以下であることを確認すること。
 ■アルカリシリカ反応性試験により、無害を確認した骨材を使用すること。
 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験に使用する供試体の採取方法は、JASS5 T-603による。
 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は、工事監理者が指定する、第三者機関とする。
 ■構造体コンクリートの圧縮強度試験は「建築物の工事における試験及び検査に関する東京都取扱い要領」第4条の試験機関にて行なうこと。
 ■コンクリートの養生は、被覆、散水などによる5日以上の湿潤養生を基本とする。

4. 鉄骨躯体工事

(1) 使用材料

・鋼材

記号	材料名	JIS番号
SS400	一般構造用圧延鋼材	JIS G3101
SSC400	一般構造用軽量形鋼	JIS G3350
STK400	一般構造用炭素鋼鋼管	JIS G3444
STKR400	一般構造用角形鋼管	JIS G3466
SNH400（L）	一般構造用溶接軽量H形鋼	JIS G3353
SNR400B	建築構造用圧延棒鋼	JIS G3138
SN490B	建築構造用圧延鋼材	JIS G3136
SNR490B	建築構造用圧延棒鋼	JIS G3138
SUS304A	建築構造用ステンレス鋼	JIS G4321

・ブレース

項目	仕様・形式など	JIS番号
材料（M12～）	■SNR400B □SS400	JIS G3138
表面仕上げ	■めっき（ユニクロ） □鉛・クロムフリーさび止めペイント1種	JIS H8625 JIS K5674
ブレース形式	■ターンバックル（S-ST-S）	JIS A5540
胴形式	■割り枠式 □パイプ式	JIS A5541
ボルト形式	■羽子板ボルト □両ねじボルト	JIS A5540
取付けボルト	■ボルト □高力ボルト（支圧接合）	

・ボルトセット

項目	仕様・形式など	JIS番号
■六角ボルトセット	ボルト ■呼び径六角ボルト □全ねじ六角ボルト ナット ■1種 □3種 平座金 ■丸型 □角型 ばね座金 仕上げ ■電気めっき（ユニクロ、クロメート） □溶融亜鉛めっき（外部露出部のみ） □ステンレス製（外部露出部のみ）	JIS B1180 JIS B1181 JIS B1256 JIS B1251
□高力ボルト	□JIS型（F10T、F8T） □トルシア型（S10T）	JIS B1186
■基礎ボルト	仕様材料： ■SS400 ■SNR400B □SNR490B 形状： ■U型 □L型 ■J型 □ナット付 ねじ加工： ■転造 □切削 ■施工後必ず防錆処理を行なうこと	大臣認定品 JIS G3101 JIS G3138 JIS K5674

・デッキプレート

項目	仕様・形式など	JIS番号
種類（記号）	■SDP1T（G） □SDP2（G）	JIS G3352
構造形式	■デッキ構造スラブ用 □合成スラブ用	
防錆措置	■溶融亜鉛めっきZ12 □その他（ ）	

・表面処理

項目	仕様・形式など	JIS番号
・さび止め塗装	■鉛・クロムフリーさび止めペイント1種（エコサビ） □溶融亜鉛めっき □さび浸透形特殊変性エポキシ樹脂塗料（さびコート）	JIS K5674 JIS H8641 JIS K5551
・仕上げ塗装	■合成樹脂調合ペイント（マリンフラッシュ） □めっき表し（外部露出部のみ） □ポリウレタン樹脂系特殊塗料（NYポリンK上塗用） □その他（ ）	JIS K5516 JIS K5659

・材料の品質管理

□材料試験を行なう。
 ■品質証明書（ミルシート）の確認を行なう。（新品部材のみ）
 ■（社）プレハブ建築協会規格建築部会による中古鉄骨部材の運用管理指針・同解説に基づく管理要領書による。

(2) 製作・施工

・製作工場 ■全国鉄構工業協会による性能評価を取得している者
 □J ■R □M □H □S □未取得
 ・製作管理技術者資格 □1級建築士 □2級建築士 □1級鉄骨製作管理技術者 ■2級鉄骨製作管理技術者
 ・製作全般 ■鉄骨の製作は、製作要領書による。（新品部材のみ）
 ■溶接の仕様、寸法などは、下記の溶接基準による。

項目	検査内容
■寸法精度（新品部材のみ）	寸法、ひずみなどの測定
■隅肉溶接（新品部材のみ）	すみ肉溶接状況の目視による確認
□部分溶込溶接（異形隅肉溶接）	開先形状、溶接状況の目視による確認
□完全溶込溶接	超音波探傷試験
■ボルト接合	スプリングワッシャーのつぶれ確認
□高力ボルト接合	マーキングのずれ、ピンテール破断の確認

項目	自主	施工者	第三者	工事監理者
工場製作部分	■全数確認	□対物 % ■書類	□ %	■書類確認
現場組立部分	■全数確認	□対物 % ■書類	-	■書類確認

第三者検査機関とは、建築主、工事監理者又は工事施工者が、受入れ検査を代行させるため、自ら契約した検査会社をいう。

・基礎ボルトの保持 □Ⅰ種（形鋼で固定） □Ⅱ種（鉄筋で固定）
 □Ⅲ種（筒で覆い位置修正後埋め充填） ■合板製型板に固定
 ・柱脚均しモルタル ■柱底均しモルタル（■普通モルタル（容積比 セメント1：砂2） □無収縮モルタル）
 □A種（無収縮モルタル圧入） □B種（モルタル詰め） □基礎上端均し
 ・ボルトの締付け ■六角ボルトは、座金・ばね座金を併用ナットを固定
 ■基礎ボルトは、座金・2重ナット又は溶接で固定
 □高力ボルトの締付けに使用する機器はよく整備されたものを使用し、締付け順序は部材が十分に密着するように注意して行う。また、締付けは、一次、二次締めとする。
 なお、導入張力確認試験は行わない。

溶接基準

・溶接の種類 被覆アーク溶接（手溶接）
 ガスシールドアーク溶接（半自動溶接）

・溶接材料 軟鋼用被覆アーク溶接棒 JIS Z3211
 軟鋼及び高張力鋼マグ溶接用ソリッドワイヤ JIS Z3312

・溶接有効長さ 溶接の有効長さ ≥ 10S かつ 40mm
 溶接の有効長さ = 溶接長さ - 2S

(2) 鉄筋

・使用材料

■鉄筋は、JIS G3112による規格品とする。
 ■溶接金網は、JIS G3551による規格品とする。

材料名	径	継ぎ手	備考
■SD295A	D10～D16	■重ね継手	
□SD345	D19～	□重ね継手 □ガス圧接	
■溶接金網	6φ×150×150	■重ね継手	

・品質管理

■施工はJASS5（2015）による。
 ■強度試験に代えて品質証明書（ミルシート）の確認を行なう。
 □D19以上の鉄筋をガス圧接する場合は日本鉄筋継手協会の「鉄筋のガス圧接工事標準仕様書」による。
 ■鉄筋の加工、組立ては別紙「鉄筋コンクリート配筋標準図」による。

・表面処理

項目	仕様・形式など	JIS番号
・隅肉溶接（重ね継手）	■溶融亜鉛めっき □さび浸透形特殊変性エポキシ樹脂塗料（さびコート）	JIS K5674 JIS H8641 JIS K5551
・フレア溶接（レ型） 軽量形鋼	■コンクリートに埋め込まれる部分も塗装する。 ■閉鎖型形状の内面は、塗装しない。 □耐火被覆を行う部分は、塗装しない。 ■内外部に露出しない部分は錆止め塗装まで。 □高力ボルト接合の摩擦面は、塗装しない。	JIS K5516 JIS K5659

・材料の品質管理

□材料試験を行なう。
 ■品質証明書（ミルシート）の確認を行なう。（新品部材のみ）
 ■（社）プレハブ建築協会規格建築部会による中古鉄骨部材の運用管理指針・同解説に基づく管理要領書による。

名称・記号	基準図	規定
隅肉溶接（T型） 一般部		S：溶接サイズ t：薄い方の板厚 t ≤ 6mmのとき t ≤ S ≤ 1.5t かつ S ≤ 6mm t > 6mmのとき 4 ≤ S ≤ t
隅肉溶接（重ね継手）		S：溶接サイズ t：薄い方の板厚 W：重ね幅 S = t W ≥ 5t かつ W ≥ 28mm
フレア溶接（レ型） 軽量形鋼		S：溶接サイズ t：軽量形鋼の厚さ t ≥ 3のとき S = t t < 3のとき S = 3
フレア溶接（K型） ブレース羽子板ボルト		S：溶接サイズ 呼び径

呼び径	d	K	S
M12	10.7	6	4.2
M14	12.5	6	4.9
M16	14.5	7	5.6
M18	16.2	8	5.6
M20	18.2	8	5.6
M22	20.2	9	6.3

・構造図に記載されている事項は、本標準図に優先して適用する。
 ・構造図及び本標準図に記載されていない事項は、工事監理者と協議を行なう。

1. 鉄筋加工

・端部折曲げ形状	折曲げ角度	180°	135°	90°
形状				
鉄筋の余長		4d以上	6d以上 (幅止め筋は4d以上)	8d以上 (幅止め筋は4d以上)

・D16以下でR≥3d D19以上でR≥4d (中間部の折曲げも同様)

・あばら筋の形状

A. 単配筋の基本形	B. 複配筋の基本形
C. 片側床版付 (Bがより良い)	D. 両側床版付 (Bがより良い)

A. 単配筋の上部フックの納め方

あばら筋上部のフックは基礎梁主筋と45°の角度をなすように加工して、かぶり厚さを確保する。

2. 組立

・継手・定着長さ

コンクリートの設計基準強度	18N/mm ²	21 24N/mm ²
重ね継手の長さ (L1)	45d または 35dフック付き	40d または 30dフック付き
定着の長さ (L2)	40d または 30dフック付き	40d または 25dフック付き
溶接金網の継手の長さ	1節半以上	1節半以上

・末端のフックは、定着および重ね継手の長さに含まない
 ・隣接する重ね継手位置は下図の何れかとする。

・重ね継手位置を下図の斜線位置 (引張力の最も小さい部分) とした場合は、上表の数値を25d以上にすることができる。上表の数値とする場合、位置の制限は無しとする。

・主筋の範囲 (端部・中央部)

・かぶり厚さ

単位: mm	最小かぶり厚さ
布基礎	基礎梁部 40 フーチング部 60
土間コンクリート	上面 30 下面 40

・かぶり厚さに捨てコンクリートは含まない。

・鉄筋のあき

・鉄筋のあきは以下の内、最大のもの以上とする。

- 鉄筋の呼び径の1.5倍以上
- 粗骨材最大寸法の1.25倍以上
- 25mm以上

・土間コンの配筋

- 鉄筋の位置は土間コン上端より40下がりの位置とする

3. 各種補強

・増打ち補強

・補強筋を入れるのは、増打ち幅70mm以上の場合とする。
 ・補強筋は梁主筋の1サイズ落しかつD16以上とする。
 ・追加あばら補強筋は、あばら筋と同径、同ピッチとする。
 ・梁幅が400以上の梁の梁成方向に増打ちする場合は補強筋を3本とする。

・主筋に段差のある場合

※定着長を確保できない場合は、先端フック付きとし、下端主筋位置まで定着させる。

・主筋を通す場合 (ファン部)

・注意事項 基礎落とし部の土間配筋補強

※: かぶり厚さを確保してサッシ枠付近まで

基礎落とし部の土間配筋補強 (シャッター部等)

・D10@200補強筋

4. 梁貫通補強

・貫通位置

・貫通孔の間隔

貫通孔が連続して間隔がとれない場合は、工事監理者と協議を行なうこと。

・貫通孔の補強

80 ≤ φ ≤ 100	
・単配筋の場合 折筋 2-D13 縦筋 ST D10@100	
・複配筋の場合 折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST2-D10@100	
100 < φ ≤ 150	
・単配筋の場合 折筋 2-D13 縦筋 ST D10@100 横筋 2-D13	
・複配筋の場合 折筋 2-(2-D13) 縦筋 ST2-D10@100 横筋 2-(2-D13)	
150 < φ ≤ 250	
・単配筋の場合 斜筋 4-D13 縦筋 ST D10@100 横筋 2-D13	
・複配筋の場合 斜筋 2-(4-D13) 縦筋 ST2-D10@100 横筋 2-(2-D13)	

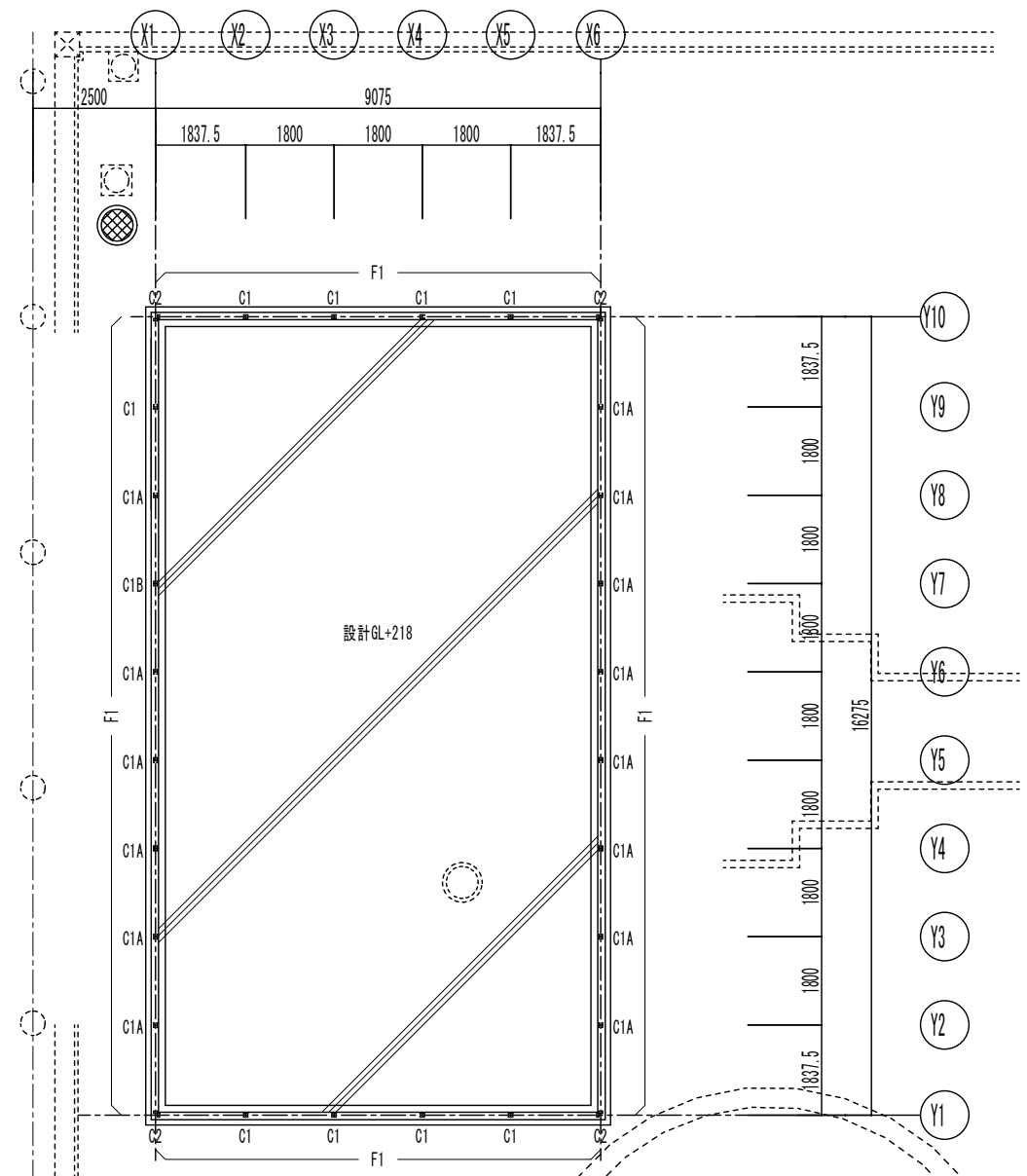
・ただし、φ ≤ 梁成/3とする。
 ・250φ以上の開口部を設ける場合は、設計図による。
 ・認定品を使用できるのは複配筋の場合のみとし、仕様はメーカーの仕様による。

・床下換気口補強

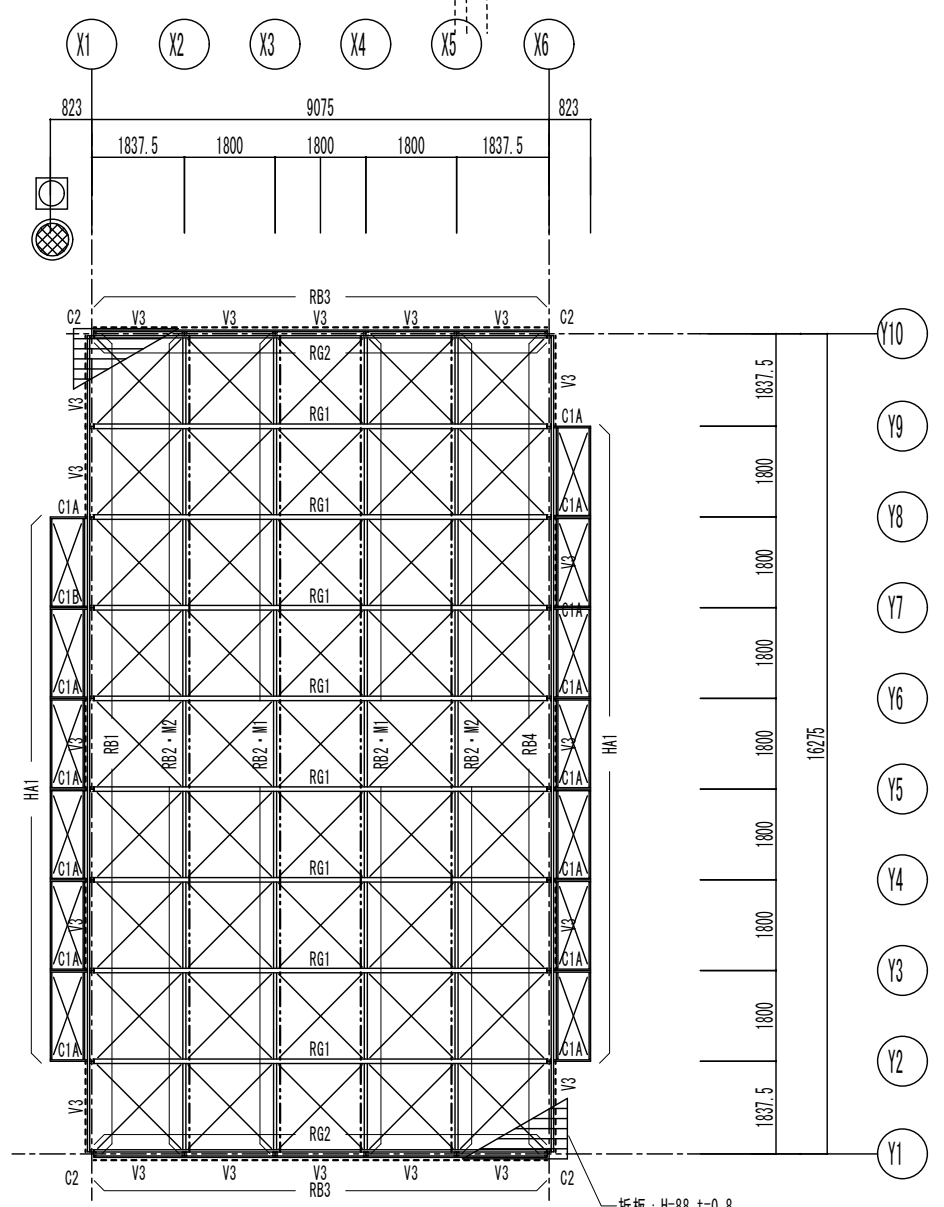
※定着長さを確保する。

溶接部の余盛高さ	溶接部の寸法許容差	孔径	接合の精度	軽量C形鋼 つり合わせ																																																																			
<p>隅肉溶接</p> <p>$0 \leq \Delta a \leq 0.4S$ かつ $\Delta a \leq 4$</p>	<p>アンダーカット</p> <p>前隅肉溶接、側面隅肉溶接 $e \leq 0.3mm$</p> <p>ただし、アンダーカット部分の長さの総和が溶接部分全体の長さの10%以下であり、かつ、その断面が鋭角的でない場合は、そのアンダーカットの深さeを1mm以下とする事ができる。 上記は「鉄骨造の継手又は仕口の構造方法を定める件」(平成12年5月31日建設省告示第1464号)による。</p>	<table border="1"> <tr> <th>ボルトの種類</th> <th>孔径 D</th> <th>軸径 d の範囲</th> </tr> <tr> <td>高力ボルト</td> <td>$d + 2$</td> <td>$d < 27$</td> </tr> <tr> <td>ボルト</td> <td>$d + 3$</td> <td>$d \geq 27$</td> </tr> <tr> <td>アンカーボルト</td> <td>$d + 5$</td> <td></td> </tr> </table>	ボルトの種類	孔径 D	軸径 d の範囲	高力ボルト	$d + 2$	$d < 27$	ボルト	$d + 3$	$d \geq 27$	アンカーボルト	$d + 5$		<table border="1"> <tr> <th>名称</th> <th>図</th> <th>許容差</th> </tr> <tr> <td>孔の心ずれ e</td> <td></td> <td>$e \leq 1mm$</td> </tr> <tr> <td>孔相互の間隔 ΔP</td> <td></td> <td>$-1mm \leq \Delta p \leq 1mm$</td> </tr> <tr> <td>孔の食違い e</td> <td></td> <td>$e \leq 1mm$</td> </tr> <tr> <td>孔のはしあきへりあき Δa</td> <td></td> <td>$\Delta a 1 \geq -2mm$ $\Delta a 2 \geq -2mm$ かつ、平成12年建設省告示第1464号にある縁端距離を満足すること 上記は、JASS6の管理許容差を示す。</td> </tr> </table>	名称	図	許容差	孔の心ずれ e		$e \leq 1mm$	孔相互の間隔 ΔP		$-1mm \leq \Delta p \leq 1mm$	孔の食違い e		$e \leq 1mm$	孔のはしあきへりあき Δa		$\Delta a 1 \geq -2mm$ $\Delta a 2 \geq -2mm$ かつ、平成12年建設省告示第1464号にある縁端距離を満足すること 上記は、JASS6の管理許容差を示す。	<p>溶接</p> <table border="1"> <tr> <th>部材</th> <th>脚長 S</th> <th>溶接長 L</th> <th>間隔 P</th> </tr> <tr> <td>C-75x45x15x2.3</td> <td>2.3</td> <td>100</td> <td>450</td> </tr> <tr> <td>C-100x50x20x2.3</td> <td>2.3</td> <td>100</td> <td>450</td> </tr> <tr> <td>C-100x50x20x3.2</td> <td>3.2</td> <td>100</td> <td>450</td> </tr> <tr> <td>C-100x50x20x2.3</td> <td>2.3</td> <td>100</td> <td>450</td> </tr> </table> <p>はさみ板</p> <table border="1"> <tr> <th>部材</th> <th>最大間隔 ≤ L</th> <th>はさみ板 a</th> <th>軸径 d</th> </tr> <tr> <td>C-75x45x15x2.3</td> <td>900</td> <td>65</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>C-100x50x20x2.3</td> <td>900</td> <td>75</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>C-100x50x20x3.2</td> <td>900</td> <td>75</td> <td>16</td> </tr> <tr> <td>[100x50x5x7.5</td> <td>900</td> <td>75</td> <td>16</td> </tr> </table> <p>tは仕口のGPLと同じとする はさみ板形状は直径aの円も可とする</p>	部材	脚長 S	溶接長 L	間隔 P	C-75x45x15x2.3	2.3	100	450	C-100x50x20x2.3	2.3	100	450	C-100x50x20x3.2	3.2	100	450	C-100x50x20x2.3	2.3	100	450	部材	最大間隔 ≤ L	はさみ板 a	軸径 d	C-75x45x15x2.3	900	65	12	C-100x50x20x2.3	900	75	16	C-100x50x20x3.2	900	75	16	[100x50x5x7.5	900	75	16
ボルトの種類	孔径 D	軸径 d の範囲																																																																					
高力ボルト	$d + 2$	$d < 27$																																																																					
ボルト	$d + 3$	$d \geq 27$																																																																					
アンカーボルト	$d + 5$																																																																						
名称	図	許容差																																																																					
孔の心ずれ e		$e \leq 1mm$																																																																					
孔相互の間隔 ΔP		$-1mm \leq \Delta p \leq 1mm$																																																																					
孔の食違い e		$e \leq 1mm$																																																																					
孔のはしあきへりあき Δa		$\Delta a 1 \geq -2mm$ $\Delta a 2 \geq -2mm$ かつ、平成12年建設省告示第1464号にある縁端距離を満足すること 上記は、JASS6の管理許容差を示す。																																																																					
部材	脚長 S	溶接長 L	間隔 P																																																																				
C-75x45x15x2.3	2.3	100	450																																																																				
C-100x50x20x2.3	2.3	100	450																																																																				
C-100x50x20x3.2	3.2	100	450																																																																				
C-100x50x20x2.3	2.3	100	450																																																																				
部材	最大間隔 ≤ L	はさみ板 a	軸径 d																																																																				
C-75x45x15x2.3	900	65	12																																																																				
C-100x50x20x2.3	900	75	16																																																																				
C-100x50x20x3.2	900	75	16																																																																				
[100x50x5x7.5	900	75	16																																																																				

溶接基準図	柱~梁	梁~梁	梁(組立部材)~ラチス材 東材	柱(組立部材)	柱(組立部材)	柱~梁(表梁)
	柱~ベースプレート(一般柱、開口部脇柱)	柱~ベースプレート(隅柱)	柱(組立部材)	柱(組立部材)	柱~ベースプレート(内部柱)	
	柱~鉛直ブレース(外周部)	柱~鉛直ブレース(内部)	梁~水平ブレース	丸鋼ブレース		

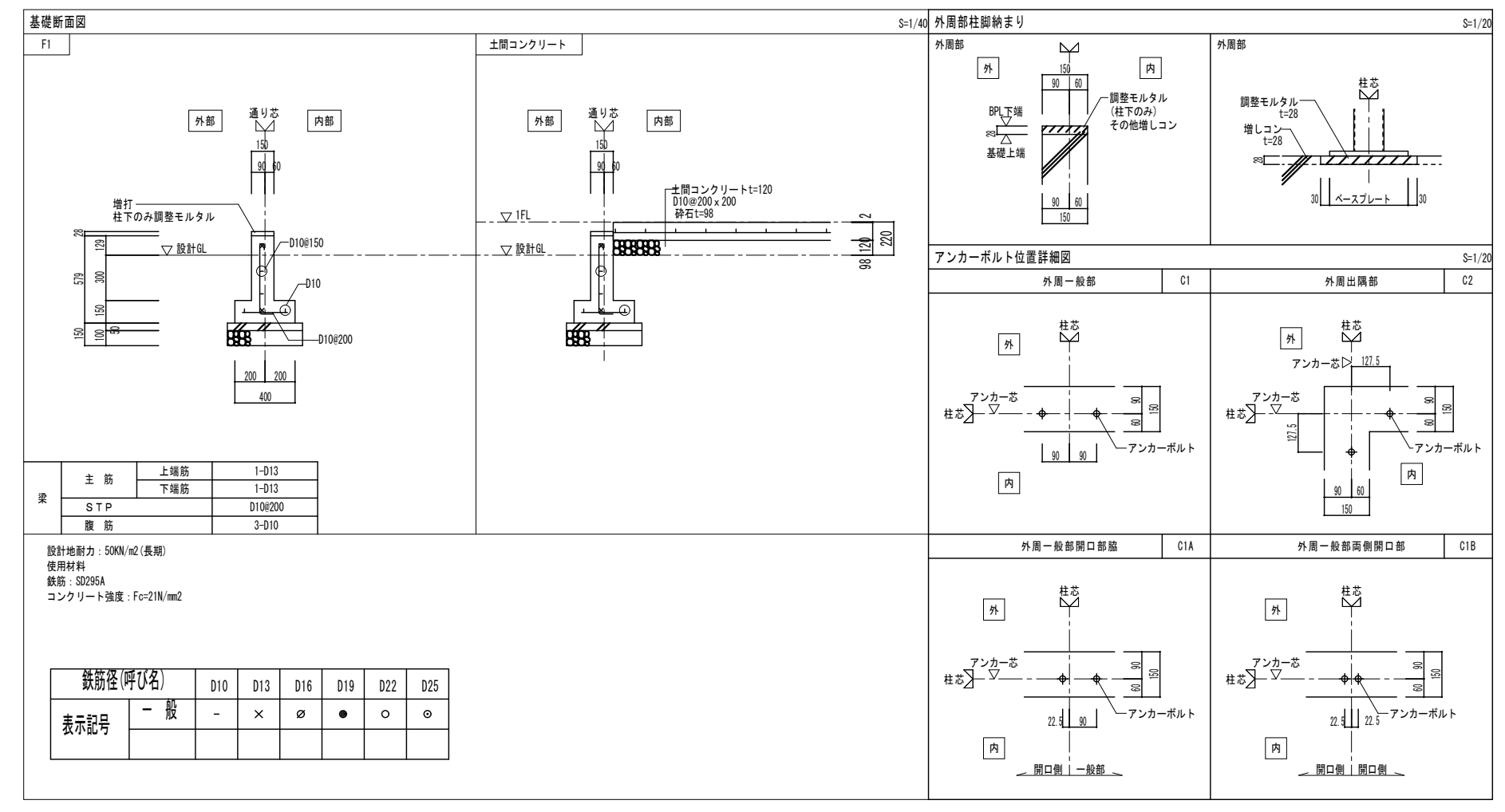


基礎状況図 S=1/150



階梁状況図 S=1/150

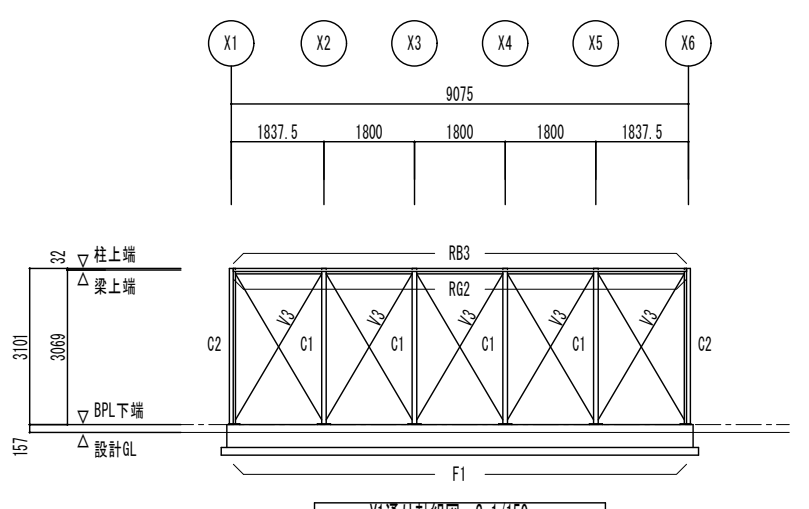
特記書き場合は下記による
柱 - C1
水平ブレース - HV1
折板 : H=88, L=0.8



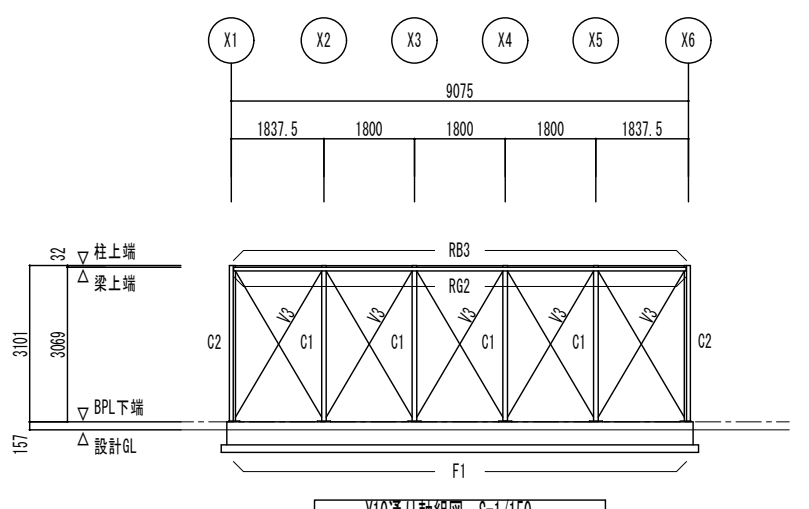
主筋	上端筋	1-D13
	下端筋	1-D13
S T P		D10@200
渡筋		3-D10

設計地耐力: 50kN/m² (表層)
 基礎材料: S295A
 鉄筋: S295A
 コンクリート強度: Fc=21N/mm²

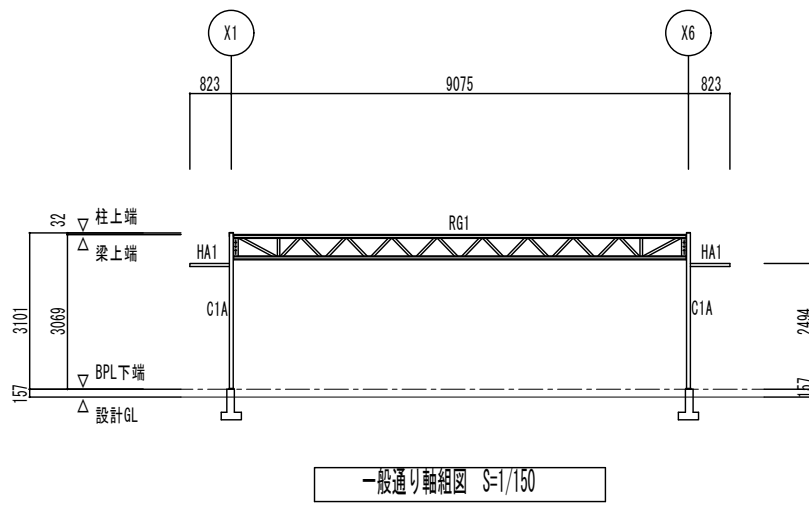
鉄筋径(呼び名)	D10	D13	D16	D19	D22	D25
表示記号	-	×	○	●	○	○



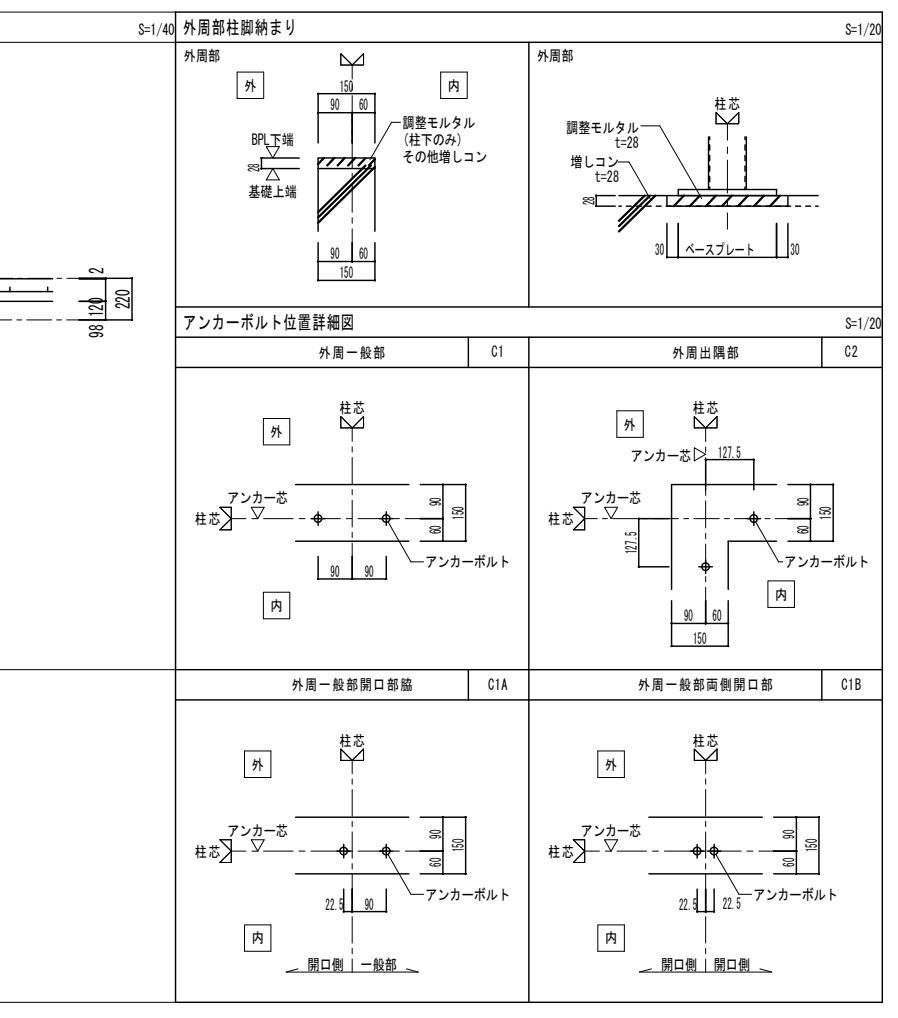
Y1通り軸組図 S=1/150



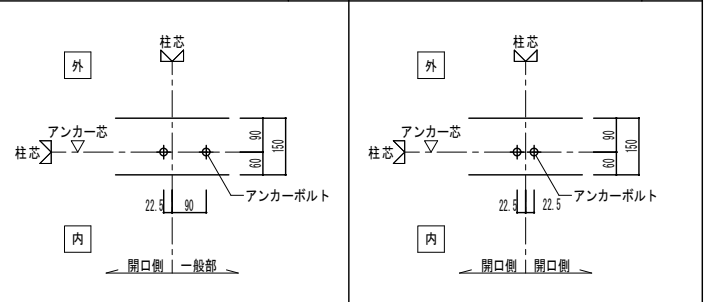
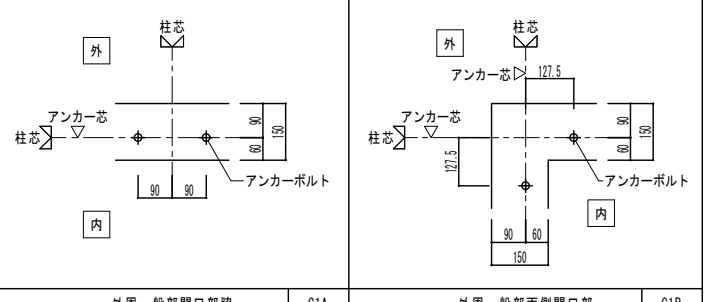
Y10通り軸組図 S=1/150



一般通り軸組図 S=1/150



アンカーボルト位置詳細図 S=1/20



鉄骨断面リスト S=1/30

※各BOLT孔径はd+1.0mmとする。
※柱脚部BOLT孔径はd+5.0mmとする。(d:ボルト径)

番号	平屋 兼間柱 標準タイプ (通常) C1	平屋 兼間柱 出入口A脇 標準タイプ (通常) C1A	平屋 兼間柱 出入口B脇 C1B	平屋 角柱 標準タイプ (通常) C2						
断面										
細長比	$\lambda=119$	$\lambda=119$	$\lambda=119$	$\lambda=85$						
部材	LipH-75x90x15x2.3 SWH400L	LipH-75x90x15x2.3 SWH400L	LipH-75x90x15x2.3 SWH400L	□-75x75x2.3 +2C-75x45x15x2.3 STKR400 SSC400						
柱脚	B. PL-16 A. BOLT2-M16	B. PL-16 A. BOLT2-M16	B. PL-16 A. BOLT2-M16	B. PL-16 A. BOLT2-M16	SN490B SNR400B	SN490B SNR400B	SN490B SNR400B	SN490B SNR400B		
番号	屋根梁 5K・旧規格梁 RG1	屋根・床 妻梁 RG2		R階外周部桁側つなぎ材 RB1	各階梁つなぎ材 RB2	R階外周部桁側つなぎ材 RB3	R階外周部桁側つなぎ材 RB4			
断面			****							
部材	a: LipH-75x90x15x2.3 b: LipH-75x90x15x2.3 c: P-48.6x2.3	C-75x45x15x2.3	SSC400	C-75x45x15x2.3	C-60x30x10x2.3 @1800	C-60x30x10x2.3	C-60x30x10x2.3	[-300x50x50x4.5		SSC400
柱脚	G. PL-4.5以上 BOLT3-M12	BOLT2-M12以上	強度区分:4.8	G. PL-4.5 BOLT2-M12	SS400 強度区分:4.8	SS400 強度区分:4.8	G. PL-4.5 BOLT2-M12	SS400 強度区分:4.8	G. PL-4.5 BOLT2-M12	SS400 強度区分:4.8
番号	M1	M2		折板						
断面										
細長比	□-60x60x3.2	C-60x30x10x2.3	SSC400	H=88, t=0.8						
部材	STKR400	SSC400								
柱脚	GPL-4.5、又は束材 BOLT2-M12	GPL-4.5、又は束材 BOLT1-M12	SS400等 強度区分:4.8							
番号	HA1									
断面										
細長比	a: □-60x30x2.3 b: □-60x30x3.2									
部材	STKR400 STKR400									
柱脚	G. PL-4.5 BOLT2-M12		SS400 強度区分:4.8							

アンカーボルト寸法表 S=NON

径 (D)	M12	M16	M20	M22	M24	M27				
L	240	320	400	440	480	540				
a	30	40	50	55	60	70				
b	50	65	80	90	100	110				

位置
形状
材質
特記事項

※各柱の部材リスト及び、伏図による。
※部材リストに特記 (L型等) 無き場合や施工上支障がない場合はU型、J型を基本とする

※表記寸法は最低寸法とし、施工に支障のない範囲内で、工事監理者確認の後 変更可とする。
※ナットはダブルナットとする。ボルトのねじ山は3山以上突出を確認する事。
※SS400材は切削ネジとする。その他は転造ネジとする。
※L1寸法は部材リストによる。
※b=40以上とする。

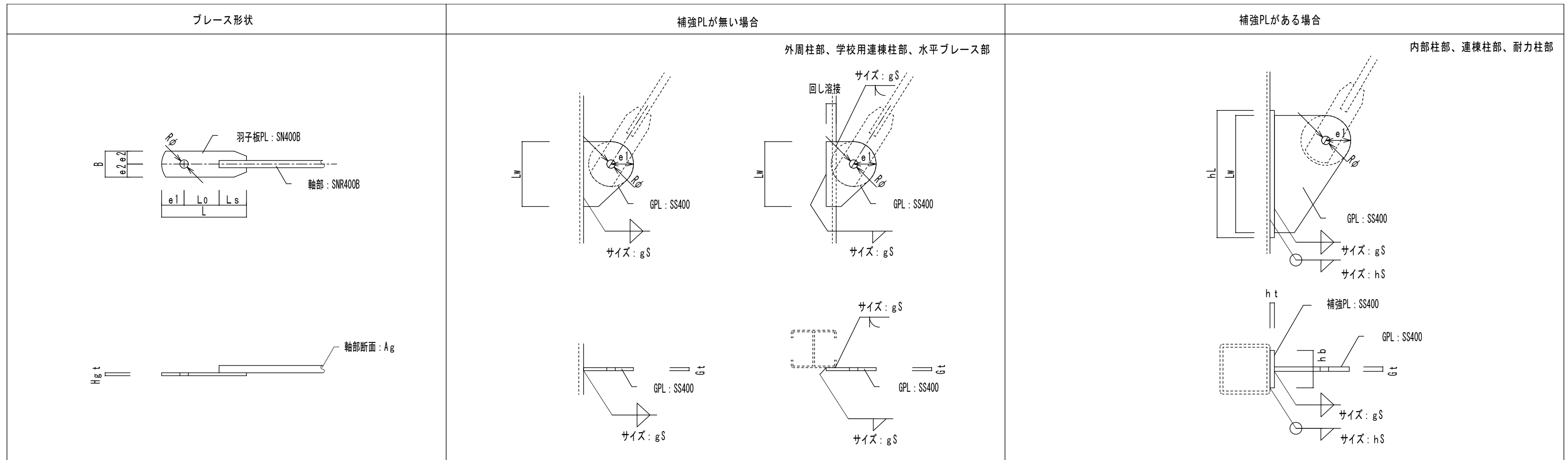
U型

J型

L型

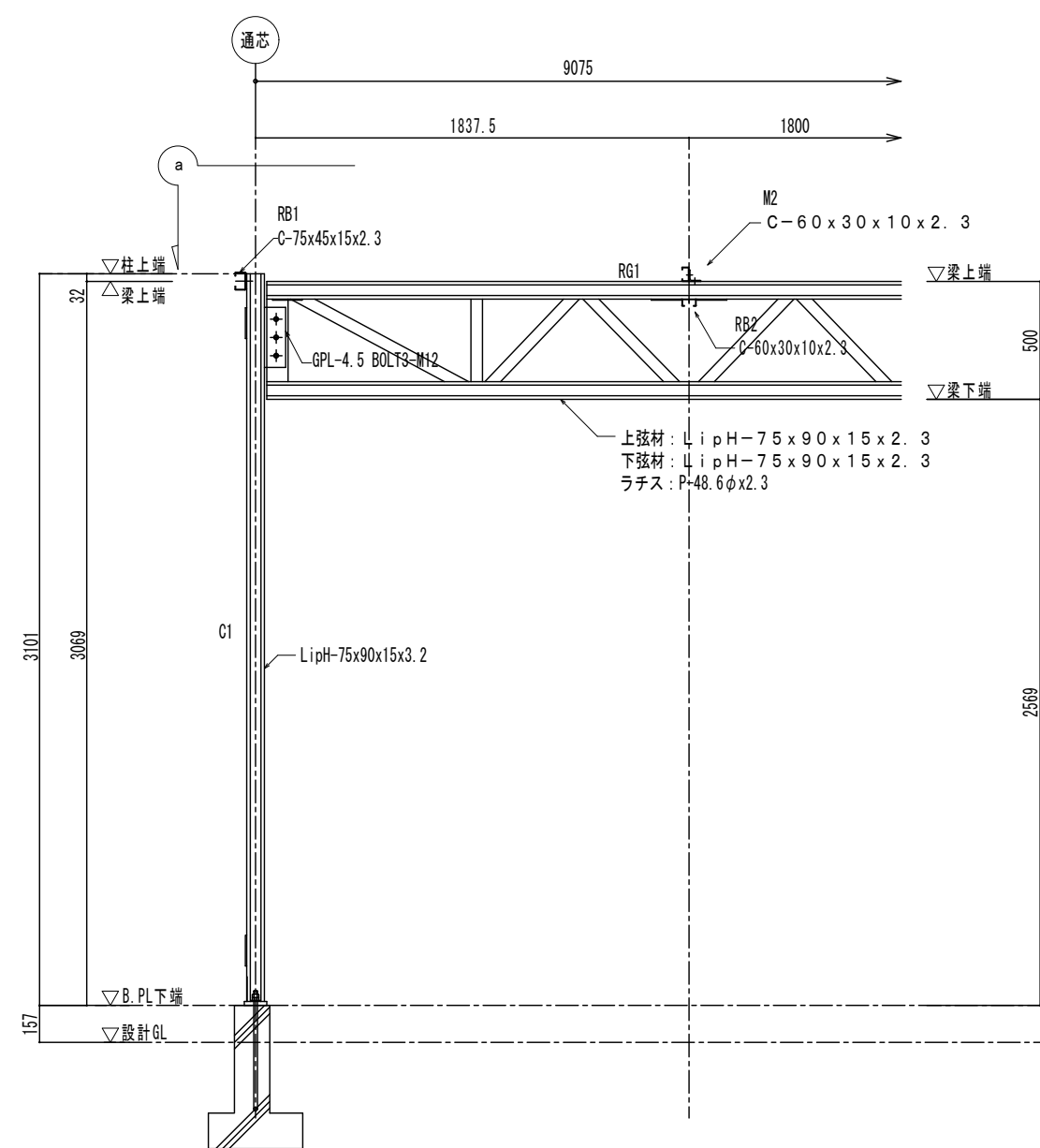
※腰折L型

※L1寸法は部材リストによる。
※L=L1+L2

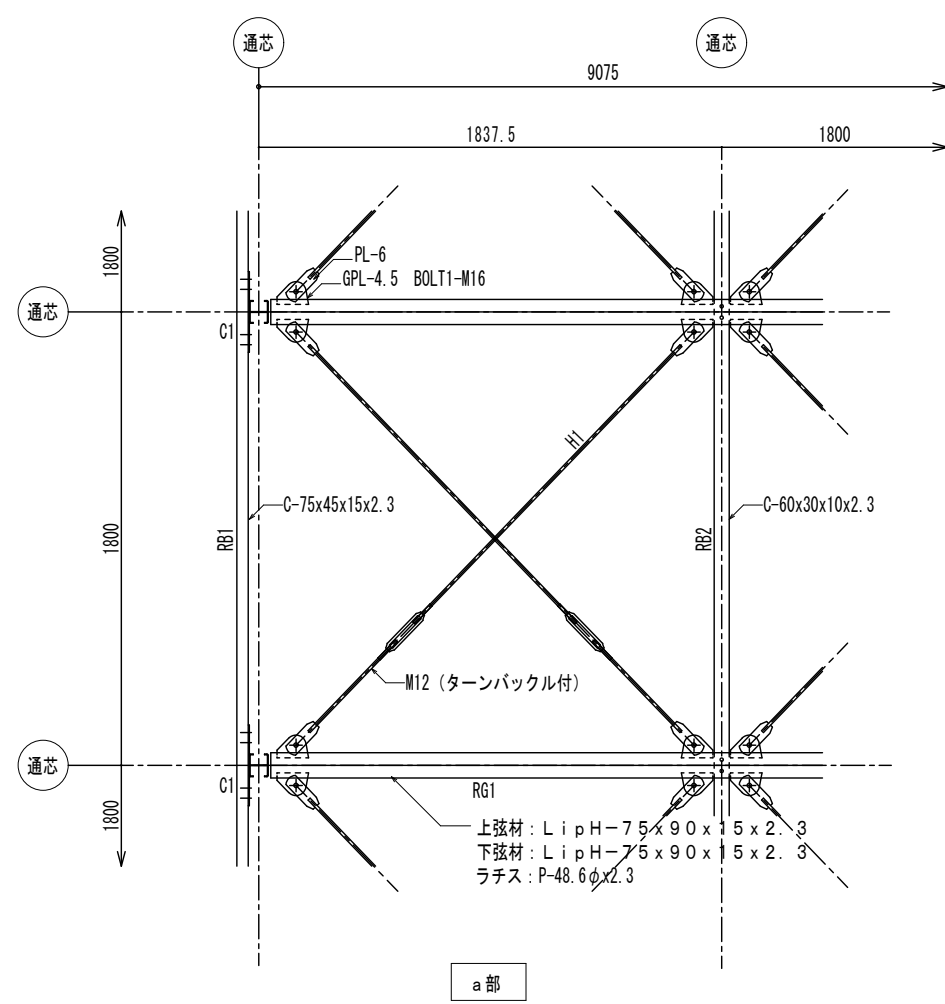


ブレース				羽子板						GPL					取り付けボルト			補強PL	GPL					取り付けボルト			補強PL			
採用	記号	ねじの呼び	軸部断面 Ag (cm ²)	(mm)						(mm)					本数 (本) n	ねじの呼び	中ボルト 強度区分	無し	(mm)					本数 (本) n	ねじの呼び	中ボルト 強度区分	(mm)			
				板厚 Hgt	板幅 B	へりあき e2	はしあき e1	孔径 Rφ	Lo	Ls	板厚 Gt	はしあき e1	孔径 Rφ	溶接サイズ gS					溶接長 Lw	板厚 Gt	はしあき e1	孔径 Rφ	溶接サイズ gS				溶接長 Lw	板厚 ht	板幅 hb	板長 hL
○	H1	M12	0.88	6.0	52	26	40	17	75	40	4.5	40	17	2.3	125	1	M16	リース 4.8 売却 10.9	無し	無し					無し					
○	V3	M12	0.88	6.0	52	26	40	17	75	40	6.0	40	17	2.3	130	1	M16	10.9	無し	同左					9.0	80	250	4.5		
	V2	M16	1.64	6.0	52	26	45	17	70	55	6.0	45	17	2.3	130	1	M16	10.9	無し	同左					9.0	80	250	4.5		
	V1	M20	2.58	9.0	67	33.5	50	21.5	80	75	9.0	50	21.5	3.2	160	1	M20	10.9	無し	同左					9.0	80	250	4.5		

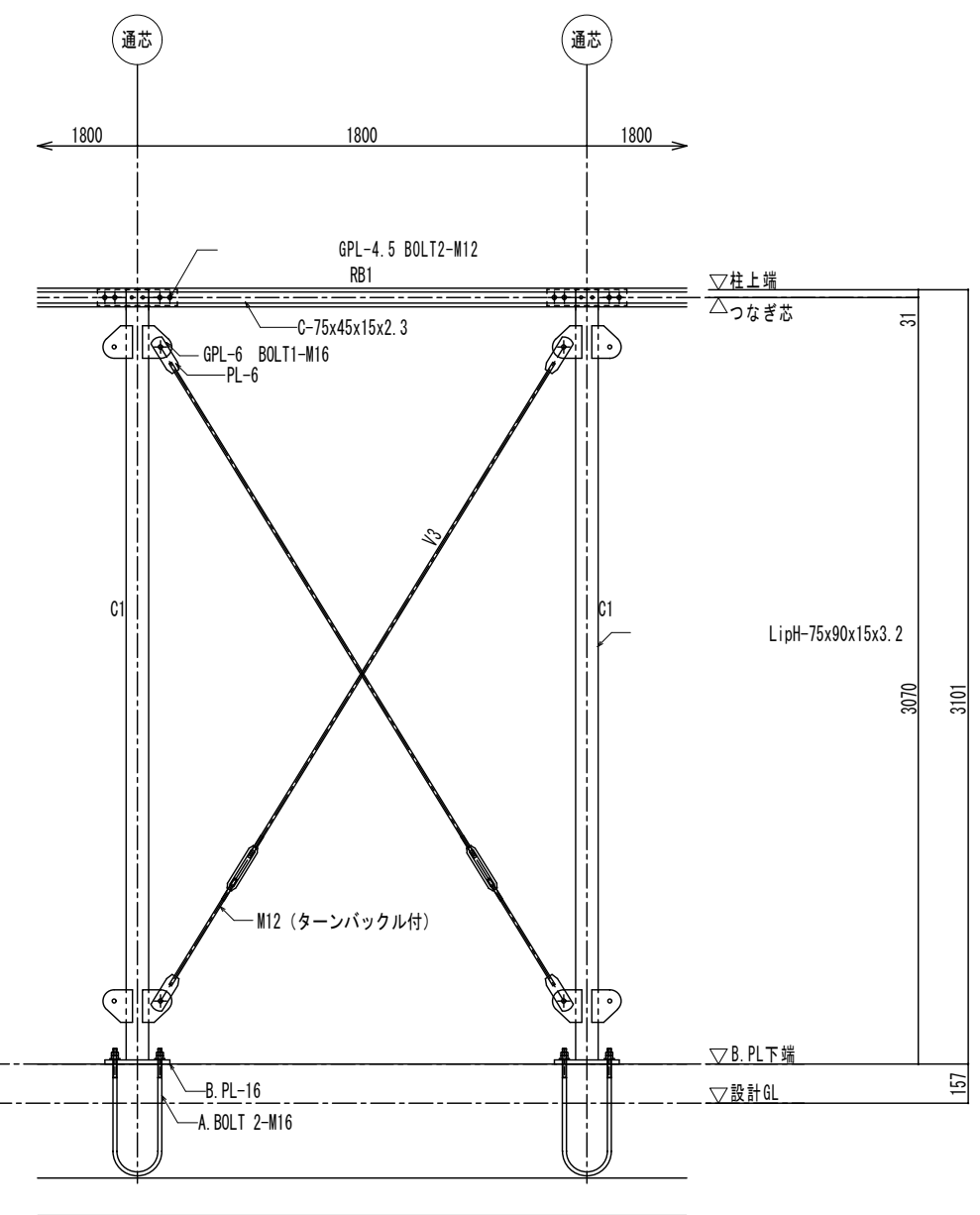
備考
 材質: 丸鋼 JISG3138 SNR400B 表面処理: (ユニクロメッキ) JISH8610、Ep-Fe/Zn8
 羽子板 JISG3136 SN400B 又は、さび止め塗装 JISK5674 (水平ブレースのみ)
 ※ 数値は構造計算上の最小値を示す。製作時は上記数値以上とする。



妻方向鉄骨詳細図 S=1/40

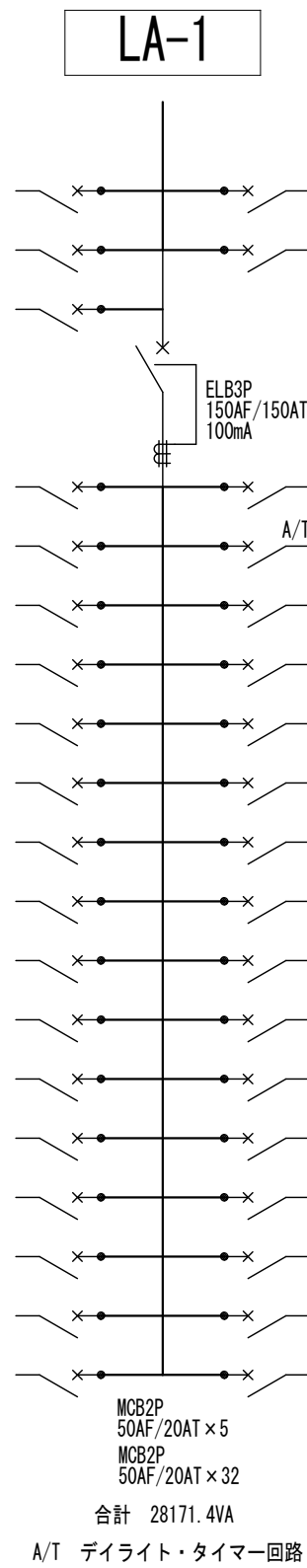


a部

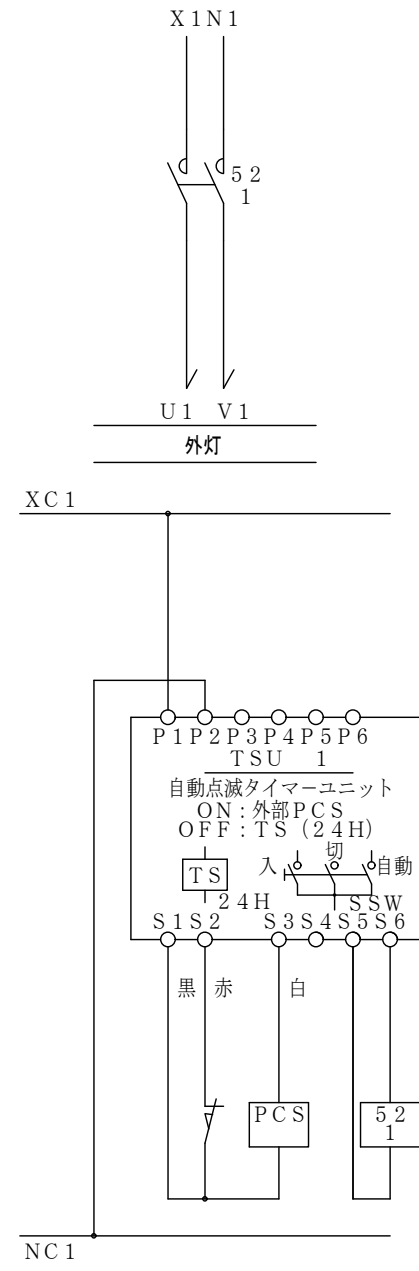


桁方向鉄骨詳細図 S=1/40

備考	回路名称	電圧	回路番号
160VA	自動火災報知設備用	100V	(a)
240VA	非常放送設備用	100V	(c)
500VA	警報盤 (K-A)	100V	(e)



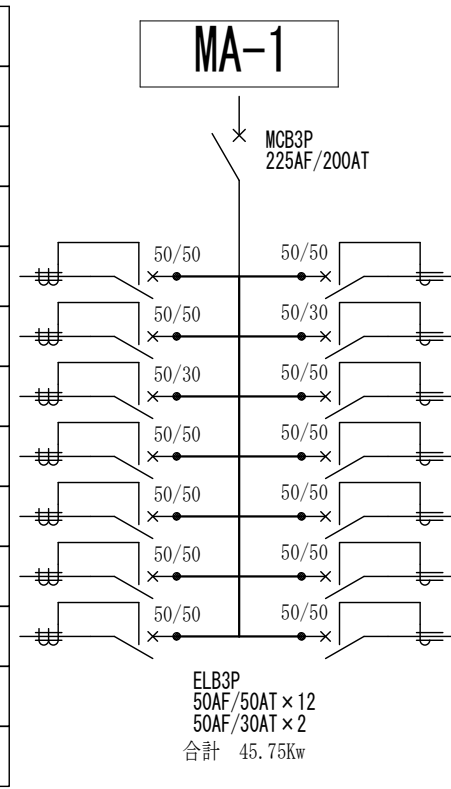
回路番号	電圧	回路名称	備考
(b)	100V	自動通報設備用	15VA
(d)	100V	校長室防災無線用	500VA



(2)	100V	休憩室・更衣室・技術職員室 女子WC・男子WC 電灯	461.8VA
(4)	100V	外部 電灯	31.5VA
(6)	100V	端子盤 コンセント	1000VA
(8)	100V	保健室 電気温水器	600VA
(10)	100V	保健室 製氷機	900VA
(12)	100V	事務室 (壁) コンセント	1200VA
(14)	100V	トイレ呼出し	50VA
(16)	100V	技術職員室 (壁) コンセント	900VA
(18)	100V	技術職員室 オープン・冷蔵庫	1000VA
(20)	100V	職員室 (壁) コンセント	900VA
(22)	100V	職員室 (天井) 2 コンセント	1200VA
(24)	100V	職員室 電気温水器	600VA
(26)	100V	職員室 電子レンジ	1000VA
(28)	100V	職員室 (壁) コンセント	600VA
(30)	100V	多目的便所 自動水栓	100VA
(32)	100V	予備	

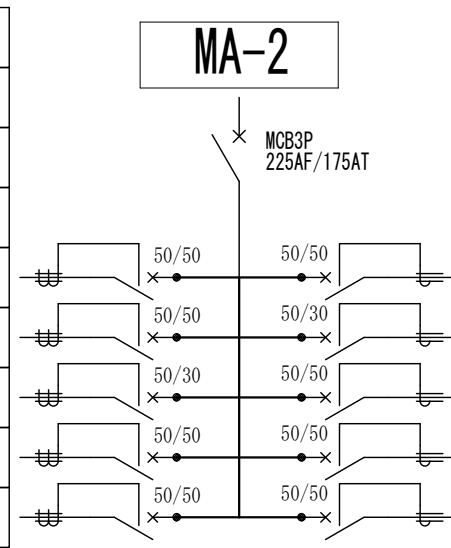
987VA	保健室・校長室・応接室 事務室 電灯	100V	(1)
1420.6VA	職員室・階段 電灯	100V	(3)
215.5VA	多目的便所・階段・廊下 電灯	100V	(5)
90VA	保健室 サイクルファン	100V	(7)
600VA	保健室 電気温水器	100V	(9)
900VA	校長室 コンセント	100V	(11)
1200VA	職員室 (天井) コンセント	100V	(13)
1200VA	休憩室・更衣室 コンセント	100V	(15)
600VA	技術職員室 電気温水器	100V	(17)
1000VA	技術職員室 電子レンジ	100V	(19)
1200VA	職員室 (天井) 1 コンセント	100V	(21)
1200VA	職員室 (天井) 3 コンセント	100V	(23)
1600VA	職員室 タブレット充電ラック	100V	(25)
1500VA	職員室 複合機	100V	(27)
1500VA	廊下 コンセント	100V	(29)
1000VA	多目的便所 温水便座	100V	(31)

備考	回路名称	電圧	回路番号
5.29kw	保健室 エアコン	200V	(A)
2.36kw	校長室・応接室 エアコン	200V	(C)
2.36kw	休憩室 エアコン	200V	(E)
4.56kw	技術職員室 エアコン	200V	(G)
4.56kw	職員室 (2) エアコン	200V	(I)
4.56kw	職員室 (4) エアコン	200V	(K)
	予備	200V	



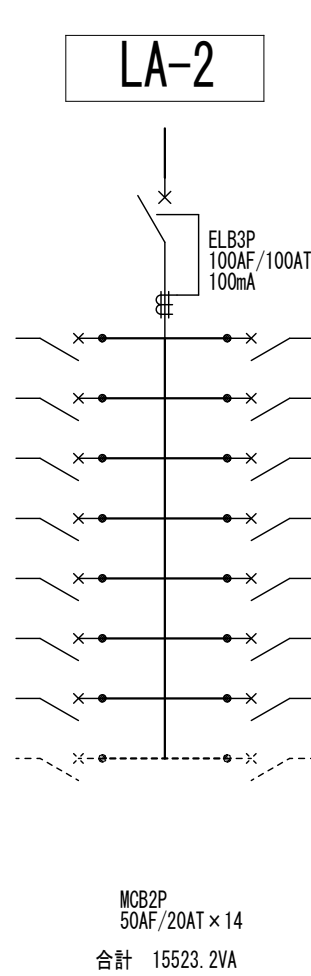
回路番号	電圧	回路名称	備考
(B)	200V	校長室・応接室 エアコン	2.36kw
(D)	200V	事務室 エアコン	5.29kw
(F)	200V	更衣室 エアコン	2.36kw
(H)	200V	職員室 (1) エアコン	4.56kw
(J)	200V	職員室 (3) エアコン	4.56kw
(L)	200V	職員室 (5) エアコン	4.56kw
	200V	予備	

備考	回路名称	電圧	回路番号
5.29kw	普通教室 (6) エアコン	200V	(M)
5.29kw	普通教室 (4) エアコン	200V	(O)
2.36kw	生徒会室 エアコン	200V	(Q)
5.29kw	普通教室 (1) エアコン	200V	(S)



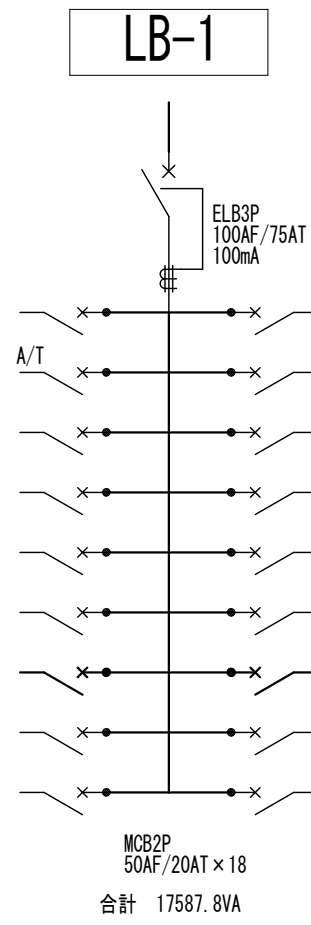
回路番号	電圧	回路名称	備考
(N)	200V	普通教室 (5) エアコン	5.29kw
(P)	200V	普通教室 (3) エアコン	5.29kw
(R)	200V	普通教室 (2) エアコン	5.29kw
(T)	200V	進路指導室 エアコン	5.29kw

備考	回路名称	電圧	回路番号
1810VA	普通教室 (3) (4) (5) (6) 生徒会室 電灯	100V	(1)
1000VA	端子盤 コンセント	100V	(3)
1200VA	普通教室 (4) (3) コンセント	100V	(5)
1200VA	進路指導室 普通教室 (1) コンセント	100V	(7)
60VA	進路指導室 サイクルファン	100V	(9)
500VA	進路指導室 冷蔵庫	100V	(11)
600VA	進路指導室 電気温水器	100V	(13)
		100V	(15)

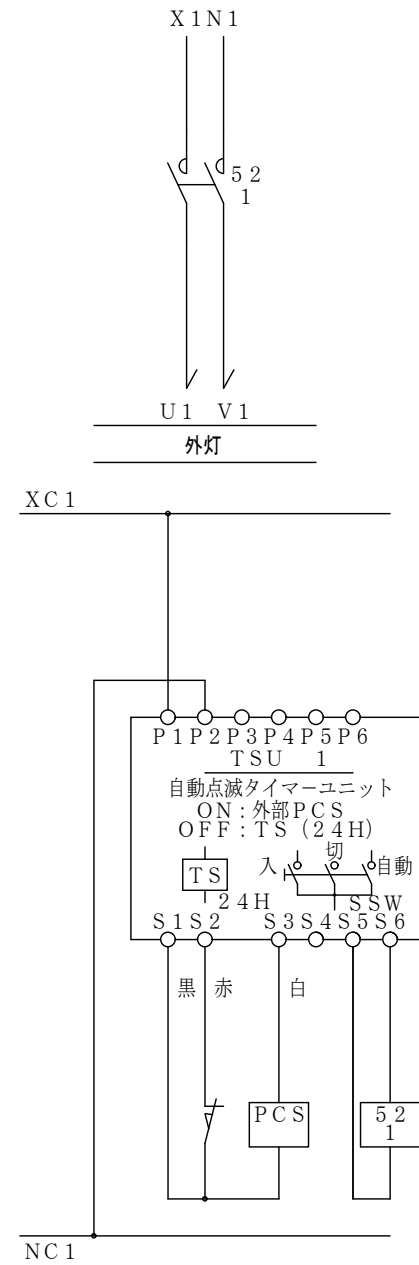


回路番号	電圧	回路名称	備考
(2)	100V	女子WC・男子WC・普通教室 (1) (2) 進路指導室 廊下電灯	1553.2VA
(4)	100V	普通教室 (5) (6) コンセント	1200VA
(6)	100V	生徒会室 普通教室 (2) コンセント	1200VA
(8)	100V	廊下 コンセント	1500VA
(10)	100V	進路指導室 (天井) コンセント	1200VA
(12)	100V	進路指導室 電子レンジ	1000VA
(14)	100V	進路指導室 複合機	1500VA
(16)	100V		

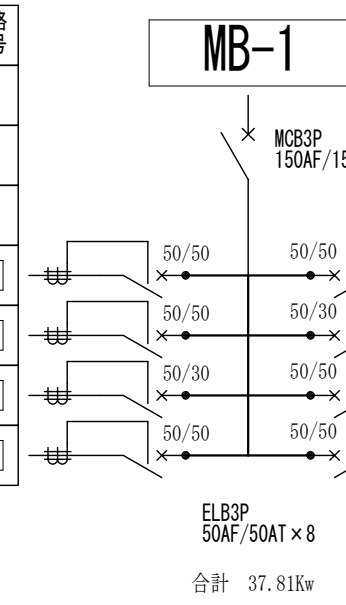
備考	回路名称	電圧	回路番号
1185VA	普通教室(1)(2)(3)電灯	100V	①
31.5VA	外部電灯	100V	③
1200VA	普通教室(3)(2)コンセント	100V	⑤
1000VA	情報処理室 情報ラックコンセント	100V	⑦
300VA	情報処理室 音響用コンセント	100V	⑨
1200VA	情報処理室(壁)コンセント	100V	⑪
1200VA	情報処理室(床)2コンセント	100V	⑬
1200VA	情報処理室(床)4コンセント	100V	⑮
1200VA	情報処理室(床)6コンセント	100V	⑰



回路番号	電圧	回路名称	備考
②	100V	女子WC・男子WC・情報処理室廊下・階段電灯	1371.3VA
④	100V	端子盤 コンセント	1000VA
⑥	100V	普通教室(1)コンセント	1200VA
⑧	100V	情報処理室 UPSコンセント	1000VA
⑩	100V	情報処理室 プロジェクターコンセント	300VA
⑫	100V	情報処理室(床)1コンセント	1200VA
⑭	100V	情報処理室(床)3コンセント	1200VA
⑯	100V	情報処理室(床)5コンセント	1200VA
⑰	100V	廊下 コンセント	600VA

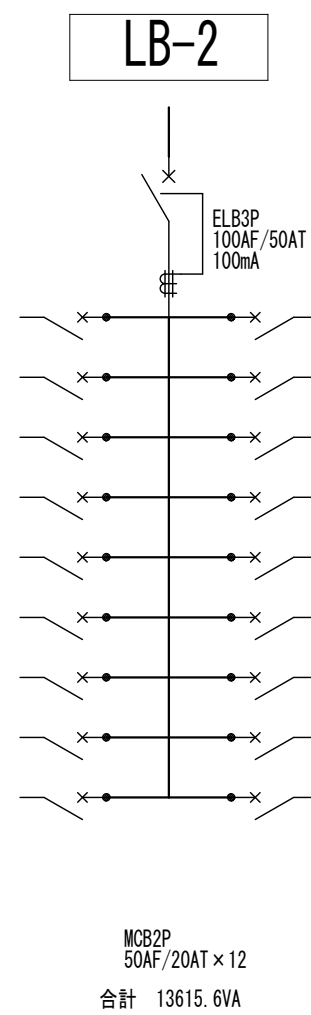


備考	回路名称	電圧	回路番号
5.29Kw	普通教室(3)エアコン	200V	A
5.29Kw	普通教室(1)エアコン	200V	C
4.56Kw	情報処理室(2)エアコン	200V	E
4.56Kw	情報処理室(4)エアコン	200V	G



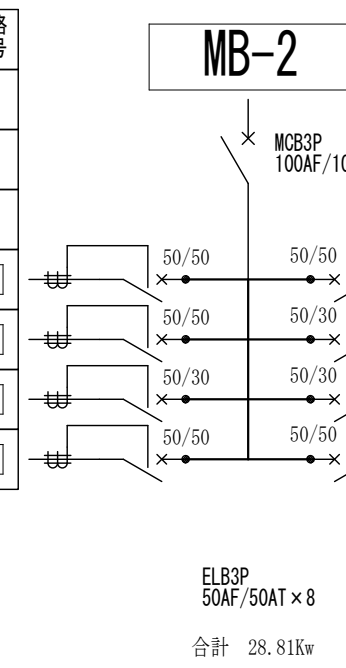
回路番号	電圧	回路名称	備考
B	200V	普通教室(2)エアコン	5.29Kw
D	200V	情報処理室(1)エアコン	4.56Kw
F	200V	情報処理室(3)エアコン	4.56Kw
H	200V	仮設給水ポンプ	3.7Kw

備考	回路名称	電圧	回路番号
1185VA	普通教室(4)(5)(6)電灯	100V	①
1000VA	端子盤 コンセント	100V	③
600VA	普通教室(4)コンセント	100V	⑤
300VA	放送室 放送卓コンセント	100V	⑦
1000VA	文書処理室 情報ラックコンセント	100V	⑨
500VA	文書処理室 音響コンセント	100V	⑪
1200VA	文書処理室(壁)コンセント	100V	⑬
1200VA	文書処理室(床)2コンセント	100V	⑮
900VA	廊下 コンセント	100V	⑰



回路番号	電圧	回路名称	備考
②	100V	女子WC・男子WC・放送室カウンセリング室・廊下電灯	530.6VA
④	100V	普通教室(6)(5)コンセント	1200VA
⑥	100V	放送室 コンセント	600VA
⑧	100V	カウンセリング室コンセント	600VA
⑩	100V	文書処理室 UPSコンセント	1000VA
⑫	100V	文書処理室 プロジェクターコンセント	300VA
⑭	100V	文書処理室(床)1コンセント	1200VA
⑯	100V	文書処理室(床)3コンセント	1200VA
⑰	100V	予備	

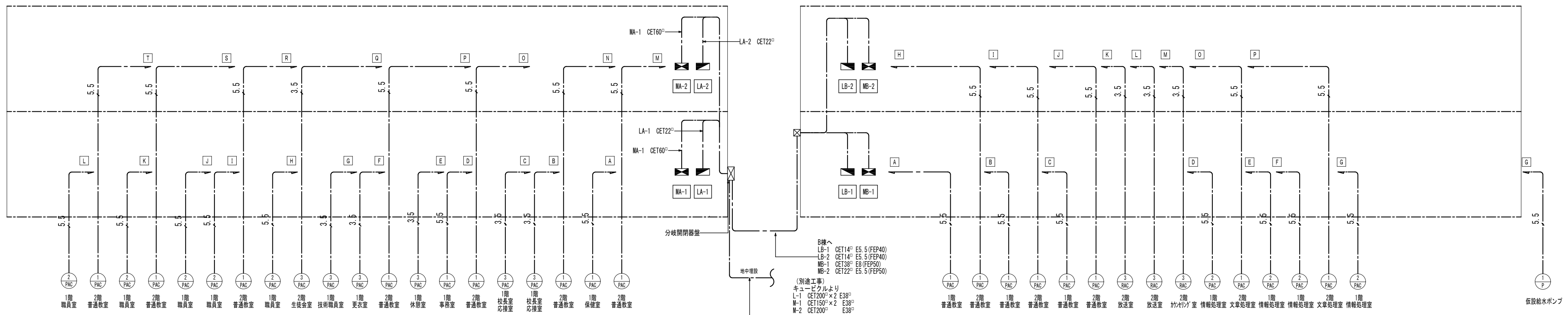
備考	回路名称	電圧	回路番号
5.29Kw	普通教室(6)エアコン	200V	H
5.29Kw	普通教室(4)エアコン	200V	J
2.2Kw	放送室 エアコン	200V	L
5.29Kw	文章処理(1) エアコン	200V	N



回路番号	電圧	回路名称	備考
I	200V	普通教室(5)エアコン	5.29Kw
K	200V	放送室 エアコン	2.2Kw
M	200V	カウンセリング室 エアコン	2.2Kw
O	200V	文章処理(2) エアコン	5.29Kw

仮設校舎A棟 幹線動力設備 系統図

仮設校舎B棟 幹線動力設備 系統図



分岐開閉器盤 (動力)

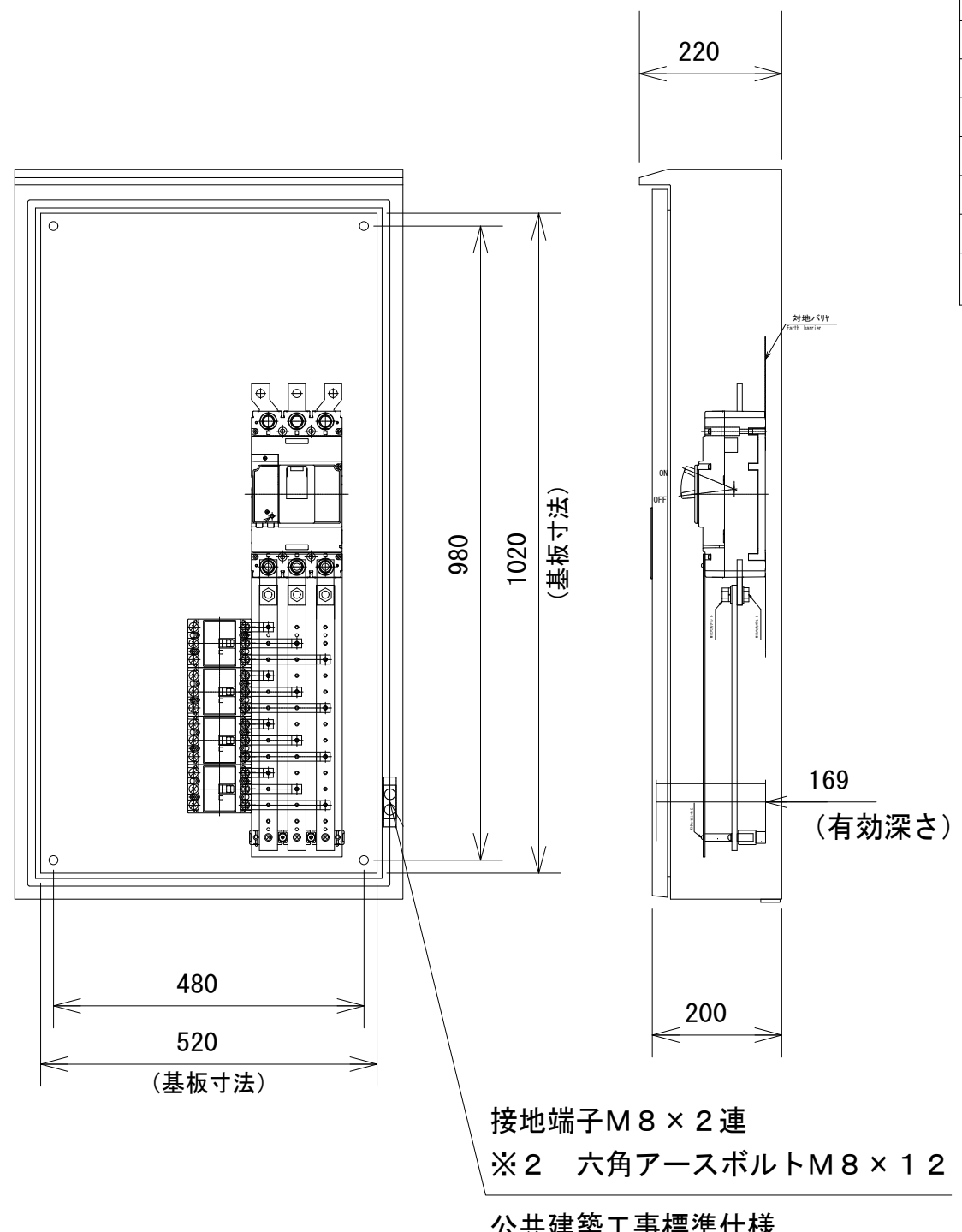
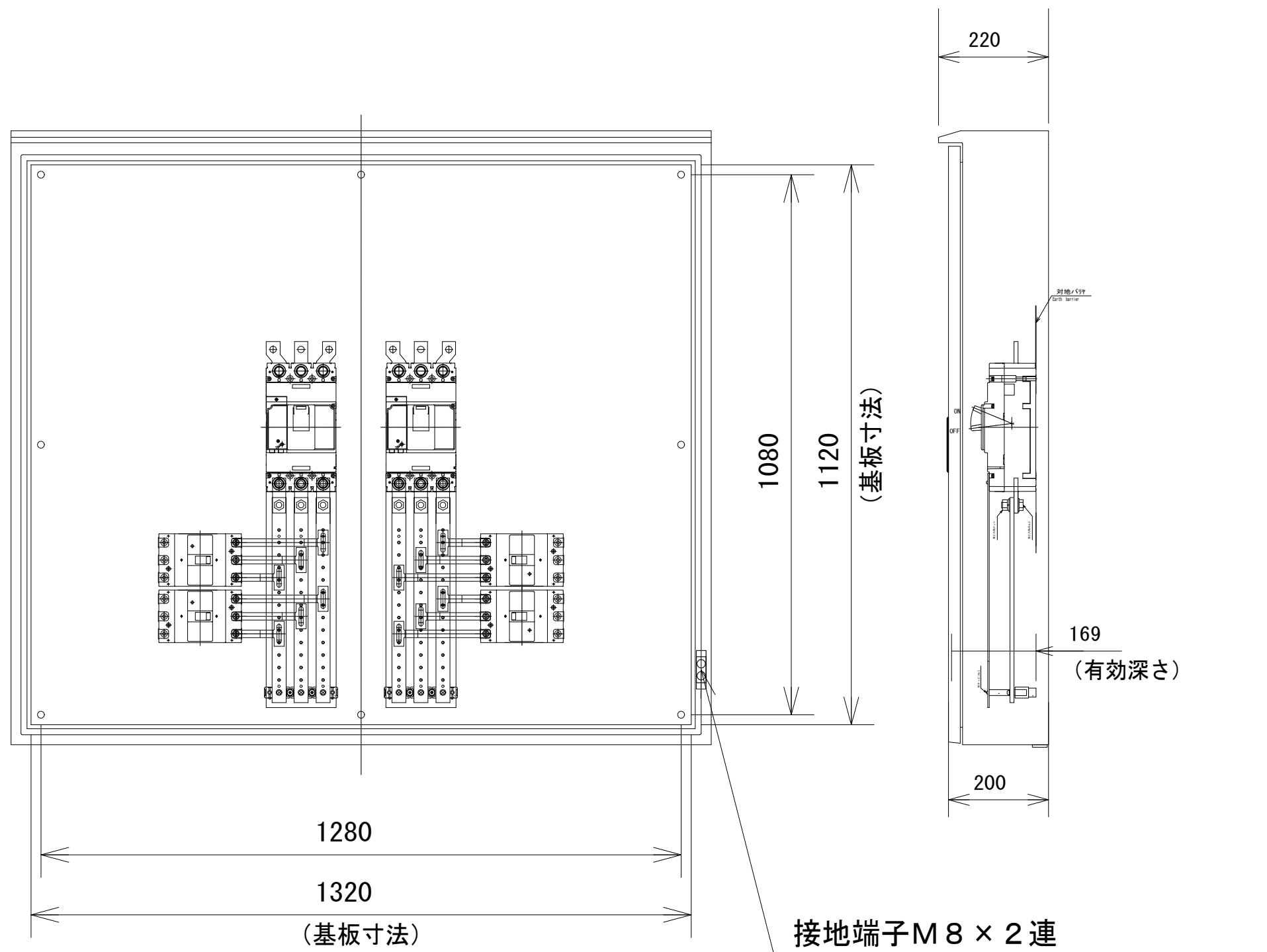
分岐開閉器盤 (電灯)

特記なき記号は下記による。

記号	名称	備考
■	分電盤	
⊠	配電盤	
⊞	制御盤	
□	端子盤	
□	ジョイントボックス	

特記なき配線は下記による。

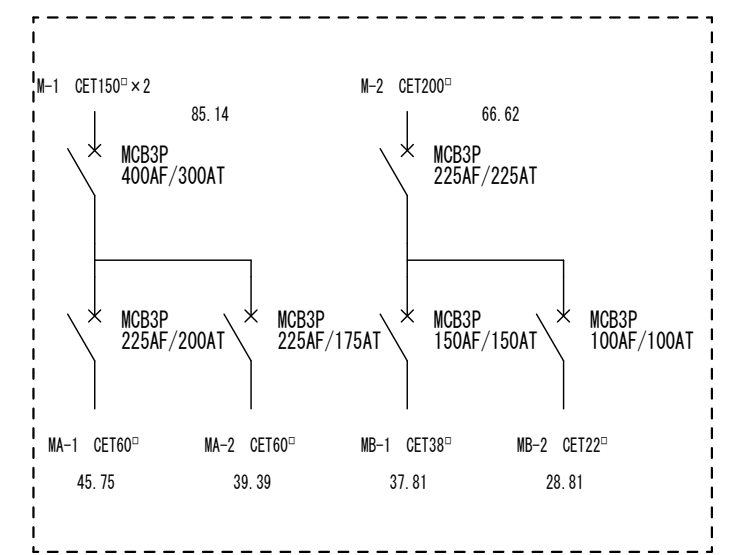
—— 5.5 ——	CE5.5-4C
—— 3.5 ——	CE3.5-4C



接地端子M8×2連
※2 六角アースボルトM8×12
公共建築工事標準仕様

接地端子M8×2連
※2 六角アースボルトM8×12
公共建築工事標準仕様

分岐開閉器盤 (動力)



分岐開閉器盤 (電灯)

